Japanese Congress
for Infrastructure Management

Fact Book
2021-2022

インフラメンテナンス国民会議
ファクトブック

インフラメンテナンス国民会議

インフラメンテナンス国民会議とは

インフラは豊かな国民生活、社会基盤を支える基盤です。老朽化するインフラが急増するなかで、施設管理者は限られた予算のなかで対応しなければなりません。そのため、インフラメンテナンスを効率的、効果的に行う体制を確保する必要があります。

また、豊かな国民生活を送る上でインフラメンテナンスは国民一人ひとりにとって重要なものです。

そこで、インフラを良好な状態で持続的に活用するために、産学官民が一丸となってメンテナンスに取り組む社会の実現に向けて、インフラメンテナンスの理念の普及、課題の解決及びイノベーションの推進を図り、活力ある社会の維持に寄与することを目的に平成28年11月に「インフラメンテナンス国民会議」は設立しました。

インフラメンテナンス国民会議の目的

1 革新的技術の発掘と社会実装
2 企業等の連携の促進
3 地方自治体への支援
4 インフラメンテナンスの理念の普及
5 インフラメンテナンスへの市民参画の推進

INDX

インフラメンテナンス国民会議について 01
- 沿革 01
- 活動の拡がり 02
- 推進体制 03
- 主要な活動 06
  - 令和3年度 インフラメンテナンス国民会議総会 07
  - 社会インフラテック2021 09
    - 地方フォーラムの取り組み紹介 10
    - スペシャルセッション 11
    - インフラメンテナンスのグッドプラクティス 12
  - 第5回インフラメンテナンス大賞 13
  - 広報部会 15

公認フォーラム（中央フォーラム）
- 革新的技術フォーラム 16
- 自治体支援フォーラム 16
- 技術者育成フォーラム 17
- 市民参画フォーラム 19
- 海外市場展開フォーラム 21

公認フォーラム（地方フォーラム）
- 北海道フォーラム 22
- 東北フォーラム 25
- 関東地方フォーラム 27
- 北陸インフラメンテナンスフォーラム 28
- 中部フォーラム 30
- 近畿本部フォーラム 32
- 「ちゅうごく」（中国フォーラム） 36
- 四国地方フォーラム 38
- 九州フォーラム 40
- 沖縄フォーラム 43

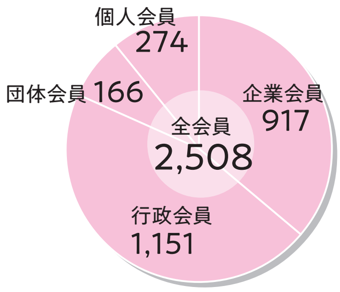
インフラメンテナンス国民会議について

沿　革

平成24年	7月25日	国土交通大臣から社会資本整備審議会会長及び交通政策審議会会長あて 「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」の諮問
	7月31日	第9回社会資本整備審議会・交通政策審議会技術分科会技術部会 （以下 技術部会）・社会資本メンテナンス戦略小委員会の設置
	12月2日	中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故
平成25年		「社会資本メンテナンス元年」として位置付け
	1月21日	社会資本の老朽化対策会議　設置
	1月30日	社会資本メンテナンス戦略小委員会緊急提言 「本格的なメンテナンス時代に向けたインフラ政策の総合的な充実 ～キックオフ「メンテナンス政策元年」～」（大臣への手交）
	3月21日	社会資本の老朽化対策会議 ・「社会資本の維持管理・更新について当面講ずべき措置」決定
	5月30日	「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」中間答申（大臣への手交）
	10月4日	インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議　設置
	11月29日	インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議 ・「インフラ長寿命化基本計画」決定
	12月25日	「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」答申
平成26年	5月21日	社会資本の老朽化対策会議 ・「国土交通省インフラ長寿命化計画（行動計画）」決定
平成27年	2月27日	技術部会「社会資本のメンテナンス情報に関わる3つのミッションとその推進方策」提言 ・インフラメンテナンス国民会議（仮称）の設置 等提言
	6月30日	「日本再興戦略改訂2015-未来への投資・生産性革命-」閣議決定 ・インフラメンテナンス国民会議（仮称）の設立　位置付け
	11月27日～ 12月16日	インフラメンテナンス国民会議（仮称）の設立に向けた意見交換会 （第1回）の実施 ・約80の企業・団体から意見をヒアリング
平成28年	4月15日～ 4月27日	インフラメンテナンス国民会議（仮称）の設立に向けた意見交換会 （第2回）の実施 ・国民会議の青写真をもとに約70の企業・団体と意見交換
	6月2日	「日本再興戦略2016-第4次産業革命に向けて-」閣議決定 ・インフラメンテナンス国民会議（仮称）の設置　位置付け
	7月29日	政務官勉強会提言 ・「インフラメンテナンスの加速化」提言 ・インフラメンテナンス国民会議（仮称）の創設　位置付け
	6月2日～ 9月29日	インフラメンテナンス国民会議（仮称）の設立に向けた準備会の実施 ・国民会議の運営に参加したい企業・団体と、具体的な組織や実施事項について検討開始 ・各種部会、フォーラム準備会により、検討内容、進め方等について議論（延べ11回開催）
	11月28日	インフラメンテナンス国民会議設立
平成29年	7月24日	平成29年度インフラメンテナンス国民会議総会（第1回インフラメンテナンス大賞表彰式と同日開催）
平成30年	4月	全国10地域で地方フォーラムが設立
	8月9日	第2回インフラメンテナンス大賞表彰式
	12月6日	平成30年度インフラメンテナンス国民会議総会（社会インフラテック2018開会式と同日開催）
令和元年	11月7日	第3回インフラメンテナンス大賞表彰式開催
	12月4日	令和元年度インフラメンテナンス国民会議総会（社会インフラテック2019ステージにて開催）
令和3年	1月8日	第4回インフラメンテナンス大賞表彰式開催 令和2年度インフラメンテナンス国民会議総会（メール開催）
	12月8日	令和3年度インフラメンテナンス国民会議総会（社会インフラテック2021ステージにて開催）
令和4年	1月21日	第5回インフラメンテナンス大賞表彰式開催

活動の拡がり

　会員は、国民会議の趣旨に賛同して十分な意欲を持って活動に参画していただける企業、団体、行政機関（国を除く）又は個人による正会員とし、正会員については、入会の手続きを経て会員の資格を取得することとしています。
　そのほか、国民会議運営のために会員の推薦によりご入会いただく特別会員や、活動以外の形態により国民会議に協力をいただく賛助会員があります。

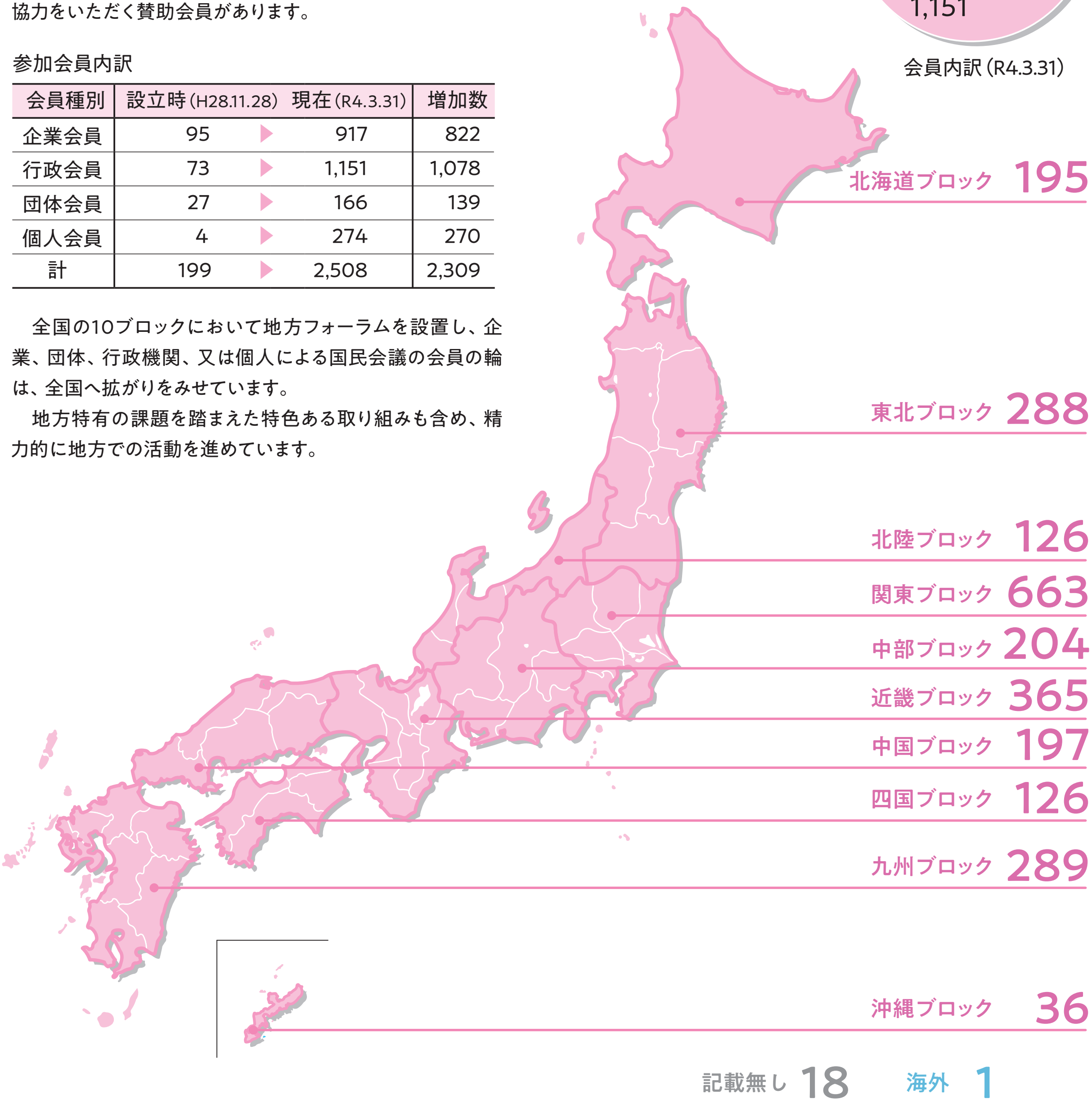


会員内訳（R4.3.31）

参加会員内訳

会員種別	設立時（H28.11.28）		現在（R4.3.31）	増加数
企業会員	95	▶	917	822
行政会員	73	▶	1,151	1,078
団体会員	27	▶	166	139
個人会員	4	▶	274	270
計	199	▶	2,508	2,309

　全国の10ブロックにおいて地方フォーラムを設置し、企業、団体、行政機関、又は個人による国民会議の会員の輪は、全国へ拡がりをみせています。
　地方特有の課題を踏まえた特色ある取り組みも含め、精力的に地方での活動を進めています。



地方ブロック毎 会員数内訳

会員種別	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	海外	記載無し	合計
企業会員数（本社ベース）	59	78	351	48	77	122	65	32	70	14	1		917
行政会員数	118	163	141	61	98	179	106	79	189	17			1,151
団体会員数（連絡先ベース）	3	20	69	9	12	22	8	8	11	4			166
個人会員数（連絡先ベース）	15	27	102	8	17	42	18	7	19	1		18	274
合計	195	288	663	126	204	365	197	126	289	36	1	18	2,508

推進体制

国民会議の活動については、国民会議の趣旨に賛同し活動に意欲のある企業、研究機関、施設管理者、市民団体等の会員にメリットのある活動を会員の主体的な運営により行うこととし、会員により構成される実行委員会、各部会、各フォーラム企画委員会を設け、運営を行います。

総会

国民会議 会員（令和4年3月31日時点）2,508者（企業917、行政1,151、団体166、個人274）

会長

冨山 和彦
株式会社経営共創基盤
IGPIグループ会長
株式会社
日本共創プラットフォーム（JPiX）
代表取締役社長

副会長

家田 仁
政策研究大学院大学
特別教授

実行委員会　国民会議全体の運営

■実行委員

阿部 雅人 （株）ベイシスコンサルティング	片岡 信之 （一社）国土政策研究会	高山 保 パイオニア（株）
岩城 一郎 日本大学	熊倉 信行 東芝環境ソリューション（株）	田子 裕子 大日本印刷（株）
岩佐 宏一 （公社）日本ファシリティマネジメント協会	小林 大 大日本コンサルタント（株）	田村 裕美 （一社）ソーシャルテクニカ
大石 健二 パシフィックコンサルタンツ（株）	笹谷 達也 日鉄高炉セメント（株）	永田 善裕 リノブリッジ（株）
大島 邦彦 （株）熊谷組	沢田 和秀 岐阜大学	羽鳥 徹 富士フイルムビジネスイノベーション（株）
大堀 正人 （株）日立ソリューションズ	鈴木 泉 （株）ガイアート	吉田 典明 日本工営（株）
奥田 早希子 （一社）Water-n	高橋 千里 （同）スマートウォーター	若木 和雄 日進工業（株）

公認フォーラム

革新的技術フォーラム

オープンイノベーションによる異業種の連携や技術の融合、マッチング

■リーダー
木村 康博
国土交通省

■企画委員
岩佐 宏一
（公社）日本ファシリティマネジメント協会
大堀 正人
（株）日立ソリューションズ
高山 保
パイオニア（株）
羽鳥 徹
富士フイルムビジネスイノベーション（株）
笹谷 達也
日鉄高炉セメント（株）
秋本 雅司
（株）島津製作所
山本 康弘
能美防災（株）
熊倉 信行
東芝環境ソリューション（株）
杉崎 光一
（株）ベイシスコンサルティング
小沼 恵太郎
パシフィックコンサルタンツ（株）
横山 敦史
（株）日立製作所
小村 和司
（株）日立製作所
小林 大
大日本コンサルタント（株）
柳 悦孝
日本製鉄株式会社
若木 和雄
日進工業（株）
松本 一城
国土交通省
吉開 亮一
国土交通省
堀江 智貴
国土交通省

自治体支援フォーラム

自治体の課題解決、自治体のニーズ・民間企業等のノウハウの情報交換

■リーダー
木村 康博
国土交通省

■企画委員
岩佐 宏一
（公社）日本ファシリティマネジメント協会
大島 邦彦
（株）熊谷組
奥田　早希子
（一社）Water-n
片岡 信之
（一社）国土政策研究会
鈴木 泉
（株）ガイアート
高橋 千里
（同）スマートウォーター
高山 保
パイオニア（株）
吉田 典明
日本工営（株）
小長井 彰祐
国土交通省
鈴木 宏一郎
国土交通省
武田 哲英
国土交通省
神野 一
国土交通省
吉開 亮一
国土交通省
堀江 智貴
国土交通省

技術者育成フォーラム

地域における技術者育成の活動を支援

■リーダー
鈴木 泉
（株）ガイアート

■企画委員
中谷 孔右
（株）エコワーク
小宮山 直久
（株）三菱総合研究所
岩佐 宏一
（公社）日本ファシリティマネジメント協会
渡邉 大介
（株）ガイアート
小長井 彰祐
国土交通省
鈴木 宏一郎
国土交通省
松本 一城
国土交通省
萩野 皓介
国土交通省
神野 一
国土交通省
吉開 亮一
国土交通省
堀江 智貴
国土交通省

市民参画フォーラム

インフラやメンテナンスへの関わりを深めるための実践活動を展開

■リーダー
岩佐 宏一
（公社）日本ファシリティマネジメント協会

■企画委員
世古 一穂
NPO研修・情報センター
鈴木 泉
社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会
駒田 智久
土木学会シビルNPO推進小委員会
岡野 登美子
アイセイ（株）
田中 努
シビルNPO連携プラットフォーム
本間 順
（株）駒井ハルテック
奥田 早希子
（一社）Water-n

海外市場展開フォーラム

海外への情報発信や海外展開案件形成

■企画委員
川村 謙一
国土交通省
森 範行
国土交通省
古澤 靖久
あずさ監査法人（KPMG）
香川 将美
インデックスコンサルティング
大島 邦彦
（株）熊谷組
橋詰健
建設プロジェクト運営方式協議会
中川 均
（公社）日本ファシリティマネジメント協会
川村 正夫
（公社）日本ファシリティマネジメント協会
小沼 恵太郎
パシフィックコンサルタンツ（株）
内藤 誠司
パシフィックコンサルタンツ（株）
永瀬 恭一
（株）フジタ

企画部会 インフラメンテナンスに関する企画等

■部会長
木村 康博 国土交通省

■幹事
箱田 厚 国土交通省
吉田 典明 日本工営(株)

■部会委員
阿部 雅人 (株)ベイシスコンサルティング
大石 健二 パシフィックコンサルタンツ(株)
大島 邦彦 (株)熊谷組
大堀 正人 (株)日立ソリューションズ
熊倉 信行 東芝環境ソリューション(株)
小林 大 大日本コンサルタント(株)
沢田 和秀 岐阜大学
鈴木 泉 (株)ガイアート
高橋 千里 (同)スマートウォーター
高山 保 パイオニア(株)
田村 裕美 (一社)ソーシャルテクニカ
若木 和雄 日進工業(株)
小長井 彰祐 国土交通省
鈴木 宏一郎 国土交通省
武田 哲英 国土交通省
神野 一 国土交通省
吉開 亮一 国土交通省
堀江 智貴 国土交通省

広報部会 インフラメンテナンスの理念普及、国民会議の広報

■部会長
小林 大 大日本コンサルタント(株)

■幹事
田子 裕子 大日本印刷(株)

■部会委員
永田 善裕 リノブリッジ(株)
土田 智 (株)福山コンサルタント
那珂 通大 ニチレキ(株)
里内 俊介 国土交通省
神野 一 国土交通省
吉開 亮一 国土交通省
堀江 智貴 国土交通省

地方フォーラム（詳細は次ページ参照）

1 北海道フォーラム
2 東北フォーラム
3 関東地方フォーラム
4 北陸インフラメンテナンスフォーラム
5 中部フォーラム
6 近畿本部フォーラム
7 「ちゅうごく」(中国フォーラム)
8 四国地方フォーラム
9 九州フォーラム
10 沖縄フォーラム

国(国土交通省および関係省庁)

地方フォーラム

1 北海道フォーラム

■リーダー
- 横田 弘　北海道大学
- 高野 伸栄　北海道大学大学院工学研究院

■企画委員長
- 栗田 悟　(一社)北海道建設業協会

■企画委員
- 岡本 淳敏　勇建設(株)
- 北見 實敏　伊藤組土建(株)
- 新沼 寛明　伊藤組土建(株)
- 河村 巧　岩田地崎建設(株)
- 横山 隆　(株)開発工営社
- 高宮 則夫　NPO法人公共環境研究機構
- 植村 豊樹　(株)構研エンジニアリング
- 伊藤 捨雄　コンクリート・鋼構造物超耐久化工法研究会
- 中里 修二　サンエスホールディングスグループ
- 工藤 理恵子　積水ハウス(株)
- 加藤 貴博　(株)ダイヤコンサルタント
- 深見 純　(株)ティーネットジャパン
- 向井 直樹　(株)ドーコン
- 阿部 幸康　(株)土木技術コンサルタント
- 大石 学　(株)中山組
- 髙橋 守人　西江建設(株)
- 三井 功如　西松建設(株)
- 内海 正徳　ニチレキ(株)
- 沼田 寛　(株)ノース技研
- 青野 純一　北電総合設計(株)
- 高宮 則夫　(株)北海道技術コンサルタント
- 南 真樹　(株)南組

■オブザーバー
- 大堀 正人　(株)日立ソリューションズ
- 高橋 千里　(同)スマートウォーター

2 東北フォーラム

■リーダー
- 石川 雅美　東北学院大学

■企画委員長
- 遠藤 敏雄　(株)復建技術コンサルタント

■企画委員
- 小野 泰太郎　(株)小野建築研究所
- 佐々木 茂隆　(株)小野工業所
- 阿部 裕彰　鹿島建設(株)
- 新銀 武　(株)中央コーポレーション
- 今野 光博　東亜道路工業(株)
- 石倉 武幸　東急建設(株)
- 赤羽 修　ニチレキ(株)
- 金子 雅明　パシフィックコンサルタンツ(株)
- 林 昭宏　(株)フジタ

■オブザーバー
- 阿部 雅人　(株)ベイシスコンサルティング
- 大石 健二　パシフィックコンサルタンツ(株)
- 田村 裕美　(一社)ソーシャルテクニカ

3 関東地方フォーラム

■リーダー
- 村越 潤　東京都立大学

■企画委員
- 平野 圭　(株)クリエート
- 柳澤 正和　(株)赤城商会
- 黒田 卓也　オムロンソーシアルソリューションズ(株)
- 江藤 靖彦　前田建設工業(株)
- 関屋 隆司　(株)フジタ
- 鈴木 健彦　八千代エンジニヤリング(株)
- 髙馬 克治　ニチレキ(株)
- 高橋 千里　(同)スマートウォーター
- 小林 大　大日本コンサルタント(株)
- 宍甘 康広　富士通(株)
- 黒木 幹　(株)福山コンサルタント
- 春山 俊仁　(株)福山コンサルタント
- 木下 史朗　木下建工(株)
- 冨川 哲　東急建設(株)
- 若木 和雄　日進工業(株)

■オブザーバー
- 高山 保　パイオニア(株)
- 田子 裕子　大日本印刷(株)
- 羽鳥 徹　富士フイルムビジネスイノベーション(株)

4 北陸インフラメンテナンスフォーラム

■リーダー
- 丸山 久一　長岡技術科学大学

■企画委員
- 嶋田 浩一　(株)熊谷組
- 池田 省吾　ニチレキ(株)
- 若尾 明弘　エヌシーイー(株)
- 湯川 雅昭　三和ボーリング(株)
- 木下 史朗　木下建工(株)
- 小林 徹　(株)レックス
- 田村 康裕　開発技建(株)
- 脇坂 哲也　大日本コンサルタント(株)
- 笹谷 輝彦　(株)国土開発センター
- 浦田 孔二　(株)日本海コンサルタント
- 砂田 良和　東亜道路工業(株)

■オブザーバー
- 大島 邦彦　(株)熊谷組
- 熊倉 信行　東芝環境ソリューション(株)
- 鈴木 泉　(株)ガイアート

5 中部フォーラム

■リーダー
- 原田 和樹　玉野総合コンサルタント(株)

■企画委員
- 細江 育男　大日コンサルタント(株)
- 安立 寛　(株)オリエンタルコンサルタンツ
- 内山 真人　(株)オリエンタルコンサルタンツ
- 那須 聖志郎　大日コンサルタント(株)
- 杉原 啓介　大日コンサルタント(株)
- 榮 義彦　玉野総合コンサルタント(株)
- 鈴木 正樹　中央コンサルタンツ(株)
- 名知 幹弘　中央コンサルタンツ(株)
- 中村 浩二　戸田建設(株)
- 伊藤 貴宏　戸田建設(株)
- 田中 伸介　ニチレキ(株)
- 山本 康博　ニチレキ(株)
- 吉田 典明　日本工営(株)
- 鈴木 健吾　(株)フジヤマ
- 海野 剛司　(株)フジヤマ
- 青島 健　(株)フジヤマ
- 水津 紀陽　八千代エンジニヤリング(株)
- 伊藤 均　八千代エンジニヤリング(株)
- 沼田 良輝　ホーメックス(株)
- 古澤 栄二　(株)テイコク
- 田中 実　東亜道路工業(株)
- 柳沼 宏信　東亜道路工業(株)

■オブザーバー
- 吉田 典明　日本工営(株)

6 近畿本部フォーラム

■リーダー
- 片岡 信之　(一社)国土政策研究会

■企画委員
- 坂野 昌弘　関西大学
- 霜上 民生　(一社)国土政策研究会
- 宮原 正和　(一社)国土政策研究会
- 山内 幸裕　(一社)国土政策研究会
- 東 定生　(一社)国土政策研究会
- 福岡 成和　(一社)国土政策研究会
- 河野 千代　(一社)国土政策研究会
- 板倉 信一郎　(一社)国土政策研究会
- 佐藤 正典　(一社)国土政策研究会
- 新田 耕司　(一社)国土政策研究会
- 井上 裕司　(一社)国土政策研究会
- 楠本 博　(一社)国土政策研究会
- 中川 芳計　(一社)国土政策研究会
- 田中 敏治　(一社)国土政策研究会
- 高山 実華　(一社)国土政策研究会

■オブザーバー
- 奥田 早希子　(一社) Water-n

7 「ちゅうごく」(中国フォーラム)

■リーダー
- 藤井 堅　広島大学

■企画委員
- 藤井 友行　復建調査設計(株)
- 岩村 誠治　(株)営善
- 井手 義勝　大林道路(株)
- 狩屋 雅之　岡山県立岡山工業高等学校
- 岩本 康弘　(株)ガイアート
- 前土井 寛之　格正建設(株)
- 紀 淳　(株)熊谷組
- 秋田 英次　山陽ロード工業(株)
- 高野 輝浩　NPO法人 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会
- 高橋 千里　(同)スマートウォーター
- 廣田 和道　戸田建設(株)
- 井上 智章　ニチレキ(株)
- 若木 和雄　日進工業(株)
- 奥村 享作　(株)フジタ
- 清水 祐介　富士通(株)
- 天満 真士　復建調査設計(株)
- 丹羽 健介　(株)Roope's

■オブザーバー
- 鈴木 泉　(株)ガイアート

8 四国地方フォーラム

■リーダー
- 矢田部 龍一　愛媛大学

■企画委員
- 庵原 伸二　(一社)四国クリエイト協会
- 栗原 弘和　(株)四電技術コンサルタント
- 妹尾 正也　四国建設コンサルタント(株)
- 大野 二郎　(株)芙蓉コンサルタント
- 濱田 拓也　(株)第一コンサルタンツ
- 松下 征司　ニチレキ(株)
- 神原 聡　徳島県
- 高橋 陽一　香川県
- 橋本 博史　愛媛県
- 田内 克彦　高知県

■オブザーバー
- 大島 邦彦　(株)熊谷組
- 笹谷 達也　日鉄高炉セメント(株)
- 田村 裕美　(一社)ソーシャルテクニカ

9 九州フォーラム

■リーダー
- 日野 伸一　(一社)九州建設技術管理協会

■企画委員
- 園田 佳巨　九州大学
- 松田 浩　長崎大学
- 大塚 久哲　(株)大塚社会基盤総合研究所
- 牧角 龍憲　(一社)NME研究所
- 山尾 敏孝　熊本大学
- 中澤 隆雄　(特非)宮崎社会基盤保全技術研究所
- 武若 耕司　(一社)構造物診断技術研究会
- 赤星 文生　(一社)九州地域づくり協会
- 福島 宏治　(一社)建設コンサルタンツ協会九州支部
- 藤島 義久　(公社)日本技術士会九州本部
- 西田 耕一　(一社)九州建設技術管理協会
- 濱村 哲之進　アース建設コンサルタント(株)
- 岩 慎二郎　(株)麻生
- 花岡 信一　前田建設工業(株)
- 青柳 貢司　前田建設工業(株)
- 岩永 信太郎　戸田建設(株)
- 小野寺 陵太郎　ニチレキ(株)
- 野上 和彦　(株)福山コンサルタント
- 園田 康行　(一社)建設業連合会九州支部
- 大園 一光　(一社)建設業連合会九州支部
- 山川 武春　(一社)九州橋梁・構造工学研究会
- 川神 雅秀　(同)防災構造工学研究所
- 渡邉 泰幸　西松建設(株)九州支社
- 長 悟史　大日本コンサルタント (株)
- 片山 英資　(一社)ツタワルドボク
- 坂爪 康展　応用地質(株)
- 佐久間 智恵　第一復建(株)
- 藤井 乙貴　西日本技術開発(株)

■オブザーバー
- 熊倉 信行　東芝環境ソリューション(株)
- 笹谷 達也　日鉄高炉セメント(株)
- 鈴木 泉　(株)ガイアート
- 若木 和雄　日進工業(株)

10 沖縄フォーラム

■リーダー
- 有住 康則　琉球大学

■企画委員
- 下里 哲弘　琉球大学
- 多嘉良 斉　(一社)沖縄県測量建設コンサルタンツ協会
- 和田 吉憲　西日本高速道路(株)
- 萩野 千晶　西日本高速道路(株)
- 金城 博　(一社)沖縄しまたて協会
- 末光 勇次　(一社)日本道路建設業協会 沖縄支部
- 砂川 健　沖縄県
- 大城 勉　(一財)沖縄県建設技術センター

■オブザーバー
- 岩佐 宏一　(公社)ファシリティマネジメント協会

活動概要

写真：山崎エリナ

令和3年度インフラメンテナンス国民会議総会

インフラメンテナンス国民会議は、我が国の全てのインフラメンテナンスの円滑な実施を目標とし、それを支援するために必要な産学官民のプラットフォームを運営するとともに、インフラメンテナンスの円滑な実現に向け必要な事業を行っています。

会長あいさつ

インフラの議論は持続性がテーマ。国民会議の長期的な展開が「ESG（環境・社会・ガバナンス）」を実現する重要な「要（かなめ）」になる。

冨山 和彦
インフラメンテナンス国民会議 会長

インフラメンテナンス国民会議は、今年で設立から5年が経ち、設立当初199者だった会員が2,468者まで増えました。中でも行政会員は、全国総数1,788地方公共団体の6割以上となる1,142者まで増えており、大変すばらしいことであります。

また、全国10ブロックで展開している地方フォーラムでは、コロナ渦の中でも、感染防止対策を十分に行いながら、オンラインやリモートといったデジタルを活用した新しい動きも始まっています。

国民会議では「地方自治体への支援」を重要な目的の一つとして活動しており、さらに地方自治体における効率的かつ効果的なメンテナンスの推進を後押しする目的で、インフラメンテナンス市区町村長会議を設立します。自治体のトップリーダーが直接参加する新しい集まりは非常に重要です。トップダウン型のリーダーシップとボトムアップがうまく連動することで、インフラメンテナンスの運動が広がっていくことを期待します。

私は今、政府の「新しい資本主義実現会議」に入っています。多くの方が同意共有できる「新しさ」というのは、「SDGs（持続可能な開発目標）」、すなわち持続可能な社会を作っていくこと、そしてそのために「ESG（環境・社会・ガバナンス）」をしっかり意識していくことになろうと思いますが、これはまさに、インフラメンテナンス国民会議が主眼としてきたことであります。

資本主義というのは成長を志向するわけですが、少なくとも先進国では、これ以上の物質的な拡大というのは難しい、あるいは、非常に環境に負荷をかける、ということを踏まえると、拡大の中心は循環的なものになっていかなければなりません。また、インフラメンテナンスのようなリアルな地上戦の領域に、クラウド上、デジタル上で展開されてきたDXの新しいテクノロジーが展開されて、リアルなところで生活をしている人たち、あるいは働いている人たちの生活の質を高め、また生産性を高めていくということが、「ESG」の「S（社会）」の部分に適合するのだと思います。

インフラの議論というのは持続性がテーマとなりますから、国民会議も今年5年の節目を迎えることができましたが、100回目の総会をいつか迎えなければいけません。そのような長期的な運動論として展開されることが、まさに日本社会、日本の国家全体が「SDGs」の時代にフィットして「ESG」を実現していく非常に重要な「要（かなめ）」になっていくことだと思っておりますので、本日、皆様方と新たな決意をさせていただきたいと思います。

インフラメンテナンス市区町村長会議の設立について

インフラメンテナンス国民会議では「地方自治体への支援」を重要な目的のひとつとして活動しており、地方自治体における効率的・効果的なインフラメンテナンスの推進を後押しする目的で、インフラメンテナンスに高い関心を有する市区町村長で構成する「インフラメンテナンス市区町村長会議」を立ち上げます。

代表幹事あいさつ

豊かな国民生活と経済活動を支えるサービスの基盤であるインフラ及びインフラメンテナンス継続の重要性について、アピールを進めてまいりたい。

髙橋 勝浩
インフラメンテナンス市区町村長会議
代表幹事 稲城市長

近年、世界の先進国では経済成長期に整備された社会インフラの老朽化が急速に進み、事故の原因となるなど、深刻な問題となっております。

我が国においても社会資本ストックが、高度経済成長期に集中して整備されており、道路、橋梁、トンネル、下水道などインフラ構造物の老朽化が加速度的に進んできており、老朽化に起因する事故や災害等の発生が社会問題化しております。

平成24年12月の笹子トンネル天井板落下事故を契機に道路法が改正され、道路構造物等の5年に一度の定期点検が義務付けられるなど、「事後保全」から「予防保全」への転換に向けた取り組みが進められてきました。

インフラ構造物は、私たちの日常生活や経済活動を営む上では無くてはならないものであり、これらの老朽化は人命に関わるものですので、メンテナンスの適切な実施が非常に重要となってまいります。

また、災害をもたらす自然現象が発生した場合においても、インフラ機能が発揮できるように、防災・減災の観点からもメンテナンスを考える必要があります。

しかしながら、特に我々市区町村の基礎自治体においては、インフラメンテナンスを行うにあたり、「予算の制約」「技術職員の不足」「知識・技術などのノウハウの取得」などに大きな課題があります。

そうしたことから、このたび、地方自治体において、インフラメンテナンスに高い関心を持つ市区町村長が自らメンバーとなる「インフラメンテナンス市区町村長会議」を、立ち上げることになりました。本会議の取り組みは、豊かな国民生活と経済活動を支えるサービスの基盤であるインフラの重要性を国民、市民に訴えるとともに、SDGs、持続可能な開発目標の達成のためにも、それらのメンテナンスを継続することの重要性のアピールを進めてまいります。さらに、インフラメンテナンス国民会議での議論を支え、インフラメンテナンスに課題を抱える皆様の応援団としても頑張ってまいる所存です。

自治体のリーダーが直接参加する新しい集まりを活用し、トップダウンによるメンテナンス施策の更なる推進が図られることに大いに期待しております。

日時 令和3年12月8日（水）13:00～13:50
場所 東京ビッグサイト 東1ホール カンファレンスステージ
プログラム
〈挨拶〉
冨山 和彦（インフラメンテナンス国民会議 会長）
〈報告事項〉
インフラメンテナンス市区町村長会議の設立について
・概要説明
　岩見 吉輝（国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課長）
・代表幹事あいさつ
　髙橋 勝浩（稲城市長）
〈特別講演〉
「正念場に立つ地方インフラのメンテナンス～求められる大転換～」
家田 仁（インフラメンテナンス国民会議 副会長）

岩見 吉輝
（国土交通省 総合政策局
公共事業企画調整課長）

家田 仁
（インフラメンテナンス
国民会議 副会長）

社会インフラテック2021

インフラメンテナンス国民会議と日本経済新聞社は、令和3年12月8日から10日までの3日間、東京ビックサイトにて「社会インフラテック2021」を開催しました。今年はリアル展とオンライン展のハイブリッド形成で開催し、カンファレンスステージでは、インフラメンテナンス国民会議総会をはじめ、地方フォーラムの取り組みや、インフラ維持管理・老朽化対策に関する地方自治体の取り組みなどをテーマとしたプログラムを実施しました。

また、展示ブースでは、インフラメンテナンス国民会議ブースを設け、パネルや映像を通じて本会議の活動や取り組みを紹介するとともに、国民会議実行委員がコンシェルジュとして来場者への説明や相談に応じました。

社会インフラテック2021会場の様子

インフラメンテナンス国民会議
展示ブース

インフラメンテナンス国民会議 紹介パネル

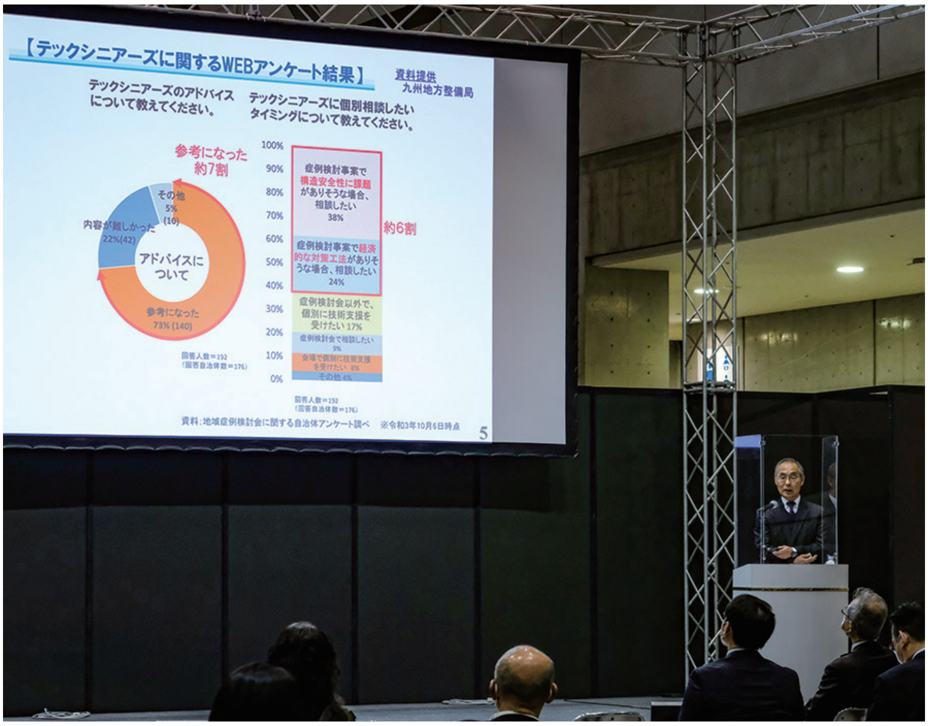
インフラメンテナンス国民会議
オンライン展ページ

日時	令和3年12月8日（水）～10日（金）の3日間
場所	東京ビッグサイト 東1ホール
展示規模	101社・団体／238小間
来場者数	約39,500人（3日間合計） （同時開催展「自然災害対策Biz／ウェザーテック、カーボンニュートラルBiz、特別企画展」との合計）
主催	インフラメンテナンス国民会議、日本経済新聞社、日経BP
後援	国土交通省、内閣府、経済産業省、文部科学省、厚生労働省、警察庁、土木学会

《社会インフラテック2021》
地方フォーラムの取り組み紹介

地方フォーラムにおけるインフラメンテナンス体制の構築や自治体支援を目的とした活動など、先駆性や展開性のある取り組みを各フォーラムの代表者が紹介しました。

これらの好事例が全国の活動に広がっていくことを期待します。



地方フォーラムの取り組み紹介の様子

木村 康博氏
（企画部会長）

石川 雅美氏
（東北フォーラムリーダー）

原田 和樹氏
（中部フォーラムリーダー）

板倉 信一郎氏
（近畿本部フォーラム 包括的民間委託等の導入推進ワーキング長）

川神 雅秀氏
（九州フォーラム 企画委員）

日時 令和3年12月8日（水） 11:00～12:00

場所 東京ビッグサイト 東1ホール カンファレンスステージ

プログラム 〈インフラメンテナンス国民会議の概要説明〉

木村 康博（企画部会長／国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 事業総括調整官）

〈地方フォーラムの取り組み紹介〉

① 東北フォーラム
「東北フォーラムの長期活動方針」
石川 雅美（フォーラムリーダー／東北学院大学工学部 教授）

② 中部フォーラム
「小規模コンクリート橋の維持管理に関する自治体支援」
原田 和樹（フォーラムリーダー／玉野総合コンサルタント株式会社）

③ 近畿本部フォーラム
「包括的民間委託等の導入推進WGの設置について」
板倉 信一郎（包括的民間委託等の導入推進ワーキング長／一般社団法人国土政策研究会 関西支部 PPP-PFI研究部会 部会長）

④ 九州フォーラム
「自治体からのよろず相談への技術支援活動」
川神 雅秀（企画委員／合同会社防災構造工学研究所）

《社会インフラテック2021》スペシャルセッション

危機に立つ地方インフラのメンテナンス！ ～技術者が本音を語る～

高度経済成長期以降に整備し、老朽化したインフラの割合が加速度的に上昇しており、老朽化に起因する事故や災害が発生するたびにインフラの老朽化が社会問題化となっています。インフラは整備するだけでなく老朽化への対応すなわちメンテナンスの適切な実施が必要ですが、特に地方においては、「予算の制約」「技術者職員の不足」「知識・技術（ノウハウ）の取得」に大きな課題があります。

本セッションでは、インフラメンテナンスの更なる展開のため、課題解消に向けた方策や今後の連携のあり方について、技術者の本音として語っていただきました。

パネルディスカッションの様子

家田 仁氏
（政策研究大学院大学 特別教授）

浅野 和香奈氏
（株式会社アイ・エス・エス／日本大学工学部 客員研究員）

植野 芳彦氏
（富山市政策参与）

吉田 典明氏
（国民会議 実行委員）

日時 令和3年12月8日（水） 15:10～16:00

場所 東京ビッグサイト 東1ホール カンファレンスステージ

出演者 〈司会〉
家田 仁（政策研究大学院大学 特別教授）
〈パネリスト〉
浅野 和香奈（株式会社アイ・エス・エス／日本大学工学部 客員研究員）
植野 芳彦（富山市政策参与）
吉田 典明（インフラメンテナンス国民会議実行委員／日本工営株式会社）

《社会インフラテック2021》
インフラメンテナンスのグッドプラクティス

第4回インフラメンテナンス大賞において、国土交通大臣賞、文部科学大臣賞、農林水産大臣賞、経済産業大臣賞を受賞された方々より技術の概要や開発過程における工夫、苦労した点、インフラメンテナンスの魅力向上などについてディスカッションしていただきました。

地方フォーラムの取り組み紹介の様子

松本 一城氏
（国土交通省 総合政策局
公共事業企画調整課 調整官）

武田 新平氏
（株式会社日本設計）

岩田 勝美氏
（株式会社岩田鉄工所 代表取締役）

木下 賢治氏（オンライン）
（関西電力送配電株式会社
配電部配電計画グループ チーフマネジャー）

越智 茂氏
（管清工業株式会社 管理本部総務部
広報課課長）

早川 智彦氏
（東京大学 情報基盤センター 特任准教授）

日時　令和3年12月10日（金） 14:00～15:30

場所　東京ビッグサイト 東1ホール カンファレンスステージ

プログラム　〈国土交通省の取組説明〉

松本 一城（国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 調整官）

〈事例紹介：第4回インフラメンテナンス大賞受賞者〉

① 文部科学大臣賞　メンテナンス実施現場における工夫部門（分野：文教施設等）
「南山大学『レーモンド・リノベーション・プロジェクト』によるキャンパスの改修」
武田 新平（株式会社日本設計）

② 農林水産大臣賞　メンテナンス実施現場における工夫部門（分野：農業農村）
「可搬式水門開閉装置『すぐれ門』による水門開閉作業の負担軽減」
岩田 勝美（株式会社岩田鉄工所 代表取締役）

③ 経済産業大臣賞　メンテナンスを支える活動部門（分野：電力）
「設備情報を用いた効率的な更新計画の策定」
木下 賢治（関西電力送配電株式会社 配電部配電計画グループ チーフマネジャー）

④ 国土交通大臣賞　メンテナンスを支える活動部門（分野：下水道）
「下水道管内調査のライブ映像公開による下水道の見える化と地域住民との交流」
越智 茂（管清工業株式会社 管理本部総務部 広報課課長）

⑤ 国土交通大臣賞　技術開発部門（分野：自動車道）
「高速道路のトンネルにおける時速100km走行での覆工コンクリート高解像度変状検出手法」
早川 智彦（東京大学 情報基盤センター 特任准教授）

第5回インフラメンテナンス大賞

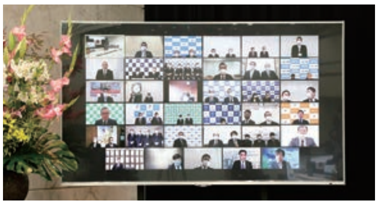
インフラメンテナンス大賞は、日本国内のインフラのメンテナンスに係る優れた取り組みや技術開発を表彰し、好事例として広く紹介することにより、我が国のインフラメンテナンスに関わる事業者、団体、研究者等の取り組みを促進し、メンテナンス産業の活性化を図るとともに、インフラメンテナンスの理念の普及を図るため実施するものです。

第5回は、7省（総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、防衛省、国土交通省）が所管する施設について247件の応募があり、33件の受賞者を決定し、令和4年1月21日にオンラインで表彰式を実施しました。

中山国土交通副大臣による祝辞

三木 千壽氏（選考委員会 委員長）

家田 仁氏（国民会議 副会長）


受賞者オンライン参加の様子

国土交通大臣賞表彰式の様子①

国土交通大臣賞表彰式の様子②

国土交通大臣賞表彰式の様子③

第5回インフラメンテナンス大賞受賞者

省	No.	表彰の種類	部門※	分野	応募者	応募案件名
総務省	1	総務大臣賞	ア	情報通信関係施設	北陸電力送配電株式会社 JVS株式会社	支障木調査の省力化のためのドローン活用
	2	情報通信技術の優れた活用に関する総務大臣賞	ウ	道路	宮川興業株式会社 国立大学法人 長岡技術科学大学	AIによる道路区画線診断技術 「RoadViewer（ロードビューアー）」
文部科学省	1	文部科学大臣賞	ウ	文教施設等	国立大学法人 金沢大学	大学校舎におけるドローンを活用した 非接触･非破壊点検手法の開発と実装
厚生労働省	1	厚生労働大臣賞	ア	水道	一般社団法人 日本水中ロボット調査清掃協会	水中ロボットによる配水池の 不断水工法での調査および清掃
	2	優秀賞	ウ	水道	コスモ工機株式会社	大口径送水管路立ち上げ部における 付属設備及び人孔蓋リニューアル工法
農林水産省	1	農林水産大臣賞	ア	水産基盤等	北海道水産林務部 水産局 漁港漁村課 北海道渡島総合振興局 函館建設管理部	増養殖場としての機能を付加させた漁港インフラの整備
	2		イ	農業農村	湯沢雄勝土地改良区	相互扶助の再生で保全管理技術を伝承
	3		ウ	農業農村	国立研究開発法人 農業･食品産業技術総合研究機構 芦森エンジニアリング株式会社 芦森工業株式会社 共和コンクリート工業株式会社	腐食した「集水井」の内巻補強工法 −老朽化した集水井を容易･迅速に補強−
	4	特別賞	ア	林野	国土防災技術株式会社	安全に詳細な記録を残せる集水井工の三次元点検手法
	5		ア	農業農村	日之影土地改良区	狭水路区間での電動水路点検車を活用した保全管理
	6		ウ	水産基盤等	株式会社ワールドスキャンプロジェクト 九州大学 浅海底フロンティア研究センター 合同会社アパラティス	水中を高解像度で正確な位置情報をもつデジタル3Dモデル化するフォトグラメトリ･スキャンシステムの活用による、構造物･海底ケーブルの監視とメンテナンス
	7	優秀賞	ア	林野	新潟県長岡地域振興局 農林振興部	高強度ポリマーセメント吹付による治山施設の老朽化対策
経済産業省	1	経済産業大臣賞	ウ	電力	関西電力株式会社 株式会社 Dshift	自律飛行型ドローンを活用した火力発電所 煙突内部点検手法の開発
	2	特別賞	ウ	ガス	大阪ガス株式会社 株式会社アプトポッド	「工事現場をAIで自動認識する車載カメラ」による ガス管パトロールの効率化
	3	優秀賞	ア	電力	株式会社かんでんエンジニアリング	油入変圧器の総合診断
	4		ウ	電力	四国電力送配電株式会社 株式会社四国総合研究所 テクノ･サクセス株式会社	小口径空洞内撮影装置を用いた コンクリート基礎の劣化診断手法の開発
	5		ウ	電力	一般財団法人 東北電気保安協会 セイコーソリューションズ株式会社 株式会社アイ･アイ･エム	自家用電気工作物の受変電設備における AIを活用した点検システム構築
防衛省	1	優秀賞	ウ	自衛隊施設	日本原料株式会社	可搬型浄水装置による新しい水道のかたち

日時 令和4年1月21日（金）15:00～17:00

場所 中央合同庁舎第３号館 10階共用会議室

次第
- 国土交通副大臣祝辞
- 受賞者表彰（33団体）
- インフラメンテナンス大賞 選考委員会委員長 講評
- インフラメンテナンス国民会議副会長からのメッセージ
- 第6回インフラメンテナンス大賞 説明

参加者
インフラメンテナンス大賞選考委員会 委員長
三木 千壽（東京都市大学 学長）
インフラメンテナンス国民会議 副会長（オンライン参加）
家田 仁（政策研究大学院大学 特別教授）
〈主務省庁代表〉
中山 展宏（国土交通副大臣）
鈴木 信也（総務省 大臣官房総括審議官）
鰐淵 洋子（文部科学大臣政務官）
佐藤 英道（厚生労働副大臣）
武部 新（農林水産副大臣）
岩田 和親（経済産業大臣政務官）
〈受賞者・関係者〉
会場参加者：約20名
オンライン参加者（受賞者）：33団体

省	No.	表彰の種類	部門※	分野	応募者	応募案件名
国土交通省	1	国土交通大臣賞	ア	空港	株式会社 南紀白浜エアポート 日本電気株式会社 株式会社オリエンタルコンサルタンツ	ドライブレコーダーを活用した空港滑走路の調査及び点検
	2		イ	道路	四万十市役所 岩間部落会 岩間四万十茶屋運営委員会 四万十市西土佐商工会青年部	清流四万十川の景観、文化、日常を構成する 岩間沈下橋を後世に残す活動
	3		ウ	鉄道	九州旅客鉄道株式会社 公益財団法人 鉄道総合技術研究所	列車巡視支援システムの開発と実用化
	4	特別賞	イ	公園	景勝・小倉山を守る会 株式会社三菱UFJ銀行 公益財団法人 三菱UFJ環境財団 京都市都市計画局風致保全課	4者協定による小倉山の森林景観再生
	5		ウ	港湾・海岸	国土交通省 北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 一般社団法人 日本埋立浚渫協会 一般財団法人 沿岸技術研究センター	リプレイサブル床版による桟橋の維持管理の安全性・品質向上
	6		ウ	下水道	株式会社建設技術研究所 国立研究開発法人 産業技術総合研究所	音響データのAI解析による下水道の雨天時浸入水検知技術の開発
	7	優秀賞	ア	道路	日東建設株式会社	ボルト・ナットを非破壊で測定するボルトテスター
	8		ア	鉄道	東日本旅客鉄道株式会社	新たな測量方法を活用した効果的な軌道保守の取り組み
	9		ア	鉄道	東海旅客鉄道株式会社	在来線の新しい降雨運転規制の導入による安全性の向上
	10		ア	官公庁施設	国立市 株式会社竹中工務店 株式会社社寺建	旧国立駅舎再築、市指定文化財の復原と利活用の取組み
	11		イ	道路	岡山県立岡山工業高等学校 国立大学法人 岡山大学学術研究院 一般社団法人 日本非破壊検査工業会 国土交通省 中国地方整備局 岡山国道事務所 世紀東急工業株式会社 日本道路株式会社 株式会社NIPPO	産官学で取り組む『岡山道路パトロール隊』
	12		ウ	河川・ダム 砂防・海岸	八千代エンジニヤリング株式会社 大和探査技術株式会社	改良型弾性波探査（コンクリートトモグラフィ）による マスコンクリートの健全度評価
	13		ウ	道路	ヤマモトロックマシン株式会社 東日本高速道路株式会社 中日本高速道路株式会社 西日本高速道路株式会社 株式会社高速道路総合技術研究所	トンネル灯具等の高速清掃装置の開発
	14		ウ	河川・ダム 砂防・海岸	株式会社大林組	ジャイロ効果による姿勢制御装置搭載型 水中点検ロボット（ディアグ®）の開発
	15		ウ	鉄道	東日本旅客鉄道株式会社	河川氾濫に対する鉄道車両の避難判断を支援する方法と システムの開発

※凡例　ア／メンテナンス実施現場における工夫部門　イ／メンテナンスを支える活動部門　ウ／技術開発部門

部会

広報部会

広報部会は、各フォーラム活動の情報共有化推進と各フォーラムへの実施方針の浸透に関する情報提供について支援を行い、フォーラム活動の活性化や会員交流の促進を推進しています。

01 地方フォーラム交流会

社会インフラテック2021カンファレンスプログラム「地方フォーラム取り組み紹介」にご登壇いただいた東北フォーラム、中部フォーラム、近畿本部フォーラム、九州フォーラム関係者にご参集いただき、地方フォーラム交流会を開催しました。

地方フォーラムを運営するためのモチベーションについて等、活発な議論により地方フォーラム同士の交流を深めました。

日時　令和3年12月8日（水）　第1部:14:30～15:30　第2部:15:30～16:30

場所　東京ビッグサイト（社会インフラテック2021会場内併設の会議室）

参加者　19名（地方フォーラム関係者14名、実行委員5名）

主催　インフラメンテナンス国民会議 広報部会

プログラム　〈第1部〉

各地方フォーラムの紹介（設立経緯や概況、注力する活動や取り組みの紹介など）

〈第2部〉

第1部でご紹介いただいた内容などに基づきフリーディスカッション

交流会の様子

02 こども霞が関見学デー

「こども霞が関見学デー」は、国土交通省をはじめとした府省庁等が連携して業務説明や省内見学などを行うことにより、親子の触れ合いを深め、こどもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、政府の施策に対する理解を深めてもらうことを目的とした取組です。

今年度は新型コロナウィルス感染の影響に配慮し、体験型のブースを設けることができませんでしたが、多くの皆さまに楽しみながらメンテナンスへの理解を深めていただくよう、令和4年度以降もプログラム参加を予定しています。

過年度の実施状況

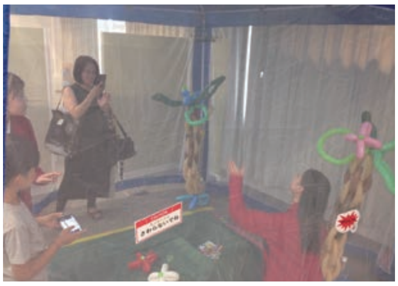
プログラム　〈体験型プログラム〉

「小型ドローン操縦+インフラメンテナンスクイズショー!」
飛行型ドローンを実際に操縦し、インフラメンテナンスに関連するオリジナルカードの釣り上げ体験を実施
（アイセイ株式会社）

「バーチャル特殊高所作業体験」
特殊高所装備を装着して仮設櫓に懸垂し、VRゴーグルをとおして高所からの景観を体験し、「子ども特殊高所技術者証」を授与
（特殊高所技術株式会社）

VRグラスを使った特殊高所作業体験

メンテナンスの紙芝居を集中して聞くこども達



小型ドローン操縦体験

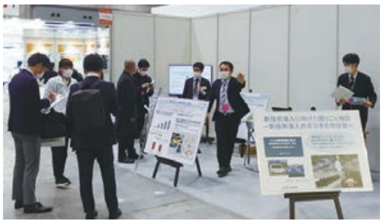
革新的技術フォーラム

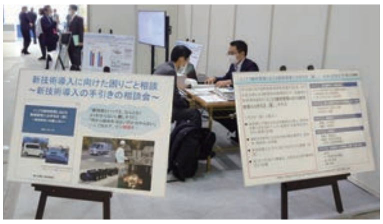
革新的技術フォーラムは、施設管理者の課題に対して、会員が有する技術・サービス等について集約・情報提供を行うとともに、革新的技術の社会実装に向けた課題整理を行うという運営方針のもと、革新的技術の社会実装が進まないという課題に対処していきます。

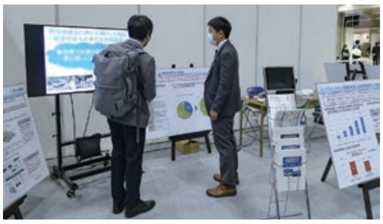
01 新技術導入に向けた困りごと相談開催

地方自治体における新技術導入を促進させるために令和2年度末に発行された「インフラ維持管理における新技術導入の手引き（案）Ver0.1」（国土交通省作成）を一層普及・充実させるべく、新技術導入に向けた困りごとに関して、自治体職員及び民間企業の方々と直接意見交換する場を設けました。

日時 令和3年12月9日（木）12:00～17:00、12月10日（金）10:00～17:00
場所 東京ビッグサイト（社会インフラテック2021 国民会議ブース隣）
参加者 自治体職員（6自治体）、民間企業等（約30名）
プログラム 既発行済みの「インフラ維持管理における新技術導入の手引き（案）Ver0.1」に関する詳細説明及び意見交換を実施。
○自治体職員意見
・新技術の活用が補助・交付金事業の重点配分となっているため。積極的活用を図りたい。
・どの技術が新技術として判定されるのかの判断が難しい。　等
○民間企業
・自治体がどういう観点をもって新技術の導入まで進めて行くかの参考になる。　等


会場の様子


会場の様子


会場の様子

自治体支援フォーラム

自治体支援フォーラムは、インフラの多くを管理する自治体の支援を目的として、行政会員の持つ課題・ニーズ、好事例などの情報共有を行うとともに、包括的民間委託、技術者育成、広域連携などの制度・体制に関する全国的テーマについてのノウハウの情報交換等を行う活動を継続的に実施していきます。

01 自治体職員による意見交換会

自治体の施設管理者の方々が、インフラの維持管理における現状の課題や対策・対応について、本音の共有及び交流を深めてもらうことを目的に開催しました。インフラの維持管理における調達方法、費用、技術力、技術者等に関して、現状の取組状況の把握と、今後の対応や対策について、ワークショップ形式で意見交換を行い、ほかの自治体との間での情報を交換し、職員間の交流を深めることも達成できました。

日時 令和3年12月9日（木）13:30～15:30
場所 東京ビッグサイト（社会インフラテック2021会場内併設の会議室）
参加者 24名（自治体職員18名、国民会議担当委員6名）
プログラム 「これまでできなかったことができるようになるために」
〈現状認識〉
・現状の課題、困りごと、理想の形など
〈意見交換〉
・制度、慣習等への提案

ワークショップの様子

技術者育成フォーラム

包括民間委託、技術者派遣等の新たな民間ノウハウを活用する手法において、担い手側に求められる企業連携やマネジメント体制の確立に向け、地域の担い手側に求められる役割や技術の方向性を模索するシンポジウムを地方フォーラムと連携して開催し、またインフラメンテナンスの課題解決の具体方策として、求められる技術者の役割や資格・制度の枠組み等について検討を進め、試行・実装を目指して活動しています。さらに地方フォーラムでのインフラメンテナンス時代のリーダーの育成を目指す先進的な取り組みをスパイラル支援していきます。

01 インフラメンテナンスを考えるシンポジウム「今使っているインフラ、100年後どうなっている?」

地方フォーラムのプラットフォームで産官学民連携によるメンテナンス技術者育成を目的として活動する団体が主催するシンポジウムを後援という形で支援しました。今回は、各地で行っている市民協働インフラメンテナンス活動の楽しさを技術者として語って頂き、この地方での市民協働のあり方と将来の担い手育成の充実を目指した意見交換になりました。開催翌日には、広島市クリーンプロジェクト(橋梁編)への参加希望者に、協働作業を実際に体験して頂きました。このような地域発信のモデルケースを継続的に後援、共催として支援を目指します。

日時 令和3年12月9日(木) 14:00~17:00
場所 広島県広島市内会場(ハイブリット開催)
参加者 約70名(企業、NPO法人、自治体、大学、学生、国民会議会員)
プログラム 〈基調講演〉
「人生100年社会のデザインと100年インフラ」
牧野 篤(人生100年社会デザイン財団 理事長/東京大学大学院 教授)
〈基調報告とパネルディスカッション〉
「それぞれの立場からインフラメンテナンスについての意見交換」
・今井 努(橋守隊(CATS-B)発起人代表)
・浅野 和香奈(日本大学工学部 客員研究員/株式会社アイ・エス・エス)
・津田 誠(石川工業高等専門学校 教授)
・わくわくピーナッツ(徳山工業高等専門学校 学生)2名
・広島市クリーンプロジェクト(NPO法人社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会)4名

基調報告の様子

パネルディスカッションの様子

参加者によるクリーンプロジェクト
協働作業の体験

02 国民会議のプラットフォームで期待される双方コミュニケーションを探る

地域のインフラメンテナンスの課題解決の具体方策として求められる技術者の役割や資格・制度の枠組み等について検討を進めるために、試行的にそれぞれの特色のある静岡県内の4つの自治体で出前ヒアリングを実施しました。まず、官民の技術者の交流の場を国民会議のプラッフォームでどのような形が期待され望ましいか意見交換し、内容を整理し、各公認フォーラム及び地方フォーラムに反映することで、令和4年度の全体最適な活動に繋げることを目指します。

日時 令和3年11月~12月(4回)
場所 各自治体会議室
参加者 自治体職員、国民会議技術者育成フォーラム企画委員
プログラム 〈意見交換〉
・インフラメンテナンス国民会議の主旨説明
・自治体の事業紹介
・維持管理に現状と課題
・国民会議のプラットフォームで出来る事

03 自治体DXがつなぐ現場業務の変革と人材育成 ～オープンデータと社会人データ活用リカレント教育～

北海道大学数理・データサイエンス教育研究センターでは、データサイエンスを活用した人材育成に取り組んでおり、今回は、社会インフラ分野での自治体DX構築事例を題材に、データの高度利用をキーフレーズとした教育・人材育成についてのシンポジウムを開催しました。自治体DXの紹介や、福井県からインフラ分野におけるDXの取組み事例を紹介頂き、これからのインフラメンテナンス技術者に求められるデータリテラシーの必要性についての理解を深めて頂きました。このような各分野でのリカレント教育も後援、共催として支援を目指します。

日時 令和4年3月7日（月） 13:30～16:00

場所 北海道大学 百年記念会館（サテライト会場、オンライン開催）

参加者 約74名（企業、NPO法人、自治体、大学、学生、国民会議会員）

プログラム 〈基調講演〉

「自治体DXとデジタル人材」
越塚 登（東京大学大学院情報学環 教授）

〈講演セッション〉

「北海道大学MDセンターにおける教育・人材育成活動のご紹介」
湧田 雄基（北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター 特任准教授）

「SIPインフラ維持管理・更新・マネジメント技術の開発事例紹介」
待鳥 博志（株式会社ベイシスコンサルティング）

「福井県でのDX施策の取り組み事例について」
臼井 裕喜（福井県建設技術公社）

「自治体DX支援（ユーザー会）の発足について」
光延 裕司（NPO法人地域・観光情報総合研究所 理事）

開催案内リーフレット

基調講演の様子

講演セッションの様子

市民参画フォーラム

インフラを長持ちさせるためには？ 難しい課題ですがインフラメンテナンス国民会議は産官学民が集まり、この難しい課題を解決していきます。そこで重要となるのは『市民』です。市民みんなで関わり、良くしていくことが重要と思える社会にしていきます。令和3年3月に市民参画フォーラムの母体となるシビルNPO連携プラットフォームは、土木学会の新たな試みとなる『インフラパートナー制度』において他団体との協力関係を築いていくこととなりました。このパートナー制度も活用しながらインフラの大切さを広げていきます。

01 サイエンスアゴラ2021 オンラインイベント

昨年度に引き続き、科学技術振興機構（JST）主催のサイエンスアゴラ2021に参加しました。今年度もオンライン開催でしたが、市民参画フォーラムが協力しているインフラマネジメンテクノロジーコンテスト2020の応募作品を様々な観点から紹介する動画「インフラの地域課題を解決せよ！~インフラテクコンをご紹介~」を作成し紹介しました。作成した動画からインフラメンテナンスへの興味につながるよう構成し、より多くの人にインフラのもつ課題を共有する機会となりました。

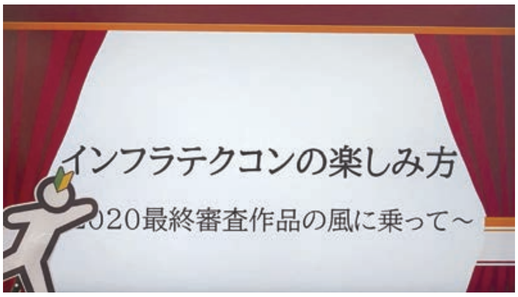
日時 令和3年11月3日（水・祝）～ 7日（日）
会期後はアーカイブ配信中

場所 サイエンスアゴラ2021　ホームページ

参加者 対象:中学生、高校生、大学生

プログラム インフラの地域課題に対する解決手法を独自の観点から編集した動画により、インフラの現状課題を楽しみながら共有する。

タイトル



インフラテクコンの楽しみ方

徳山高専 わくわくピーナッツの提案概要書

香川高専 雄風の提案概要書

02 インフラマネジメント テクノロジーコンテスト2021

全国の高等専門学校（高専）の学生を対象にした、インフラテクコン2021を開催するにあたり企画から運営を市民参画フォーラムで協力しました。このコンテストは昨年に続き2回目の開催となりました。イベントの主旨となる地域に根ざした活動から、地域課題を解決するためのアイデア作りの学科横断、学年横断、学校横断、さらには地域企業や行政との連携へ広がりつつあります。今回のコンテストは、あつまれ！グンマの風（群馬高専）「風レンズを用いた垂直型風車による高効率発電」が最優秀賞に輝きました。

日時 令和3年8月～令和4年3月

場所 オンライン

参加者
- 参加チーム：1次　17チーム（15校）【全国57校中（国公私立）】
  最終　11チーム（10校）、自由参加　1チーム
- 協賛：プラチナパートナー21団体（26者）、
  ゴールドパートナー32者、
  オフィシャルパートナー12者
- 共催3団体、後援12団体、協力3団体

プログラム

〈インフラテクコン　コンテスト本選〉

①1次作品募集期間　：令和3年8月2日～10月4日
②最終作品募集期間：令和3年11月1日～12月20日
③インフラテクコン入賞者発表：令和4年2月1日

〈インフラテクコン　フォトコンテスト〉

①募集期間　：令和3年11月18日～令和4年1月12日
②投票期間　：令和4年2月14日締切
③入賞者発表：令和4年3月11日

〈その他イベント〉

①日経産業新聞『高専に任せろ』特集号に掲載：令和3年11月30日
②社会インフラテック2021：令和3年12月8日～10日
③インフラテクコン交流会：令和4年3月11日

インフラテクコン最優秀賞受賞チーム

街の未来を守るのはキミたちの技術・アイデアだ!
広告
インフラテクコン2021 開催中!
インフラテクコン公式WEBサイト https://www.infratechcon.com

特集「高専に任せろ」新聞紙面

社会インフラテックカンファレンスステージ

海外市場展開フォーラム

メンテナンス分野の海外プロジェクトに関連する官民連携の促進や、国内外のメンテナンスに関する製品・技術・知見を有する産官学の関係者による「プラットフォーム」の構築により、メンテナンス分野における我が国企業の海外展開を図る取り組みを行っています。

01 インフラメンテナンス 海外市場展開セミナー

インフラメンテナンス分野における海外プロジェクトに関する官民連携の強化と我が国企業の海外展開の促進を目的として、過年度の調査内容（諸外国におけるインフラメンテナンスの現状及び課題）を報告するとともに、在外公館に赴任中のアタッシェから、東南アジア諸国のインフラメンテナンスに関する現地のリアルな課題や技術ニーズ、COVID-19の影響等の情報提供を行うセミナーを開催しました。

日時 令和3年9月8日（水）15:30～17:00
場所 オンライン（zoomウェビナー）
参加者 約200名
プログラム 〈過年度調査概要の報告〉
〈東南アジア諸国のインフラメンテナンス分野に関する情報提供〉
〈国内のインフラメンテナンス分野に関する新技術の動向〉
〈今年度の取組方針〉

インフラメンテナンス海外市場展開セミナーの様子

02 日インドネシア・インフラメンテナンスセミナー2022

インドネシアでは道路・橋梁などのインフラの老朽化が進んでおり、メンテナンスに課題を抱えています。インフラメンテナンスの課題解決に資する観点から、両国のインフラメンテナンスに係る政府の取り組み、インドネシアにおける老朽化やメンテナンスで課題を抱える施設を対象としたケーススタディ、日本企業のメンテナンス技術をインドネシア側関係者に紹介し、インフラメンテナンス事業への参画・協働に向けて、インドネシア政府・現地企業と日本企業とのネットワーク構築をサポートする目的でセミナーを開催しました。

日時 令和4年3月17日（木）15:00～17:00
場所 オンライン（zoomウェビナー）
参加者 約400名
プログラム 〈日本のインフラメンテナンスの取組状況〉
〈インドネシアにおけるメンテナンスの現状・課題〉
〈インドネシアの老朽化インフラを事例としたケーススタディ〉
〈日本のメンテナンス技術の紹介〉

日インドネシア・インフラメンテナンスセミナーの様子

北海道フォーラム

平成30年3月23日に設立し、北海道内の地方公共団体が管理する土木施設・公共施設の適切なメンテナンスを継続していくため、産学官民の技術や知恵を総動員するプラットフォーラムとして、活動しています。

リーダー　高野 伸栄
北海道大学大学院工学研究院教授

01 北海道フォーラム オンラインシンポジウム「地方でのインフラメンテナンスを考える」

公共インフラの適切なメンテナンスを継続するため、インフラの現状を再確認し、メンテナンスのノウハウや好事例などを紹介するとともに、北海道フォーラムの取り組みを周知する等して、課題解決に向けた機運を高めました。

北海道フォーラムとしては、昨年度に引き続きオンラインによるイベントの開催となりましたが、北海道内各地や道外から多くの方にご参加頂きました。

日時　令和4年2月2日（水）13:30～17:00
場所　オンライン
参加者　約160名
プログラム　〈開会挨拶〉
栗田 悟（一般社団法人北海道建設業協会 副会長）
〈講演〉
①「インフラメンテナンスの現状と課題」
高野 伸栄（北海道大学大学院工学研究院 教授）
②「道路メンテナンス事業補助制度について」
箱石 龍也（北海道開発局 地方整備課 係長）
③「ドローンを活用した下水管路の点検手法」
稲垣 裕亮（株式会社NJS 開発本部ドローン開発部長）
④「異常気象に対応した公営施設のメンテナンスにおける課題」
横山 隆（北海道フォーラム公共施設・住宅グループ）
⑤「白老町におけるインフラメンテナンスの取組」
舛田 紀和（白老町 建設課 課長）
⑥「インフラ維持管理における新技術導入の手引き（案）の説明」
萩野 皓介（国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 係長）
〈意見交換（インフラメンテナンスに関する意見交換）〉
胆振・日高地方の自治体職員と北海道フォーラムメンバーがインフラメンテナンスに関する人材育成や新技術の導入について意見交換を実施

高野伸栄フォーラムリーダーによる講演の様子

白老町建設課 舛田紀和課長による講演の様子

自治体職員との意見交換の様子

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課
萩野皓介係長の講演の様子

02 インフラメンテナンス技術（舗装）講演会 @北海道

北海道土木技術会舗装研究会並びにインフラメンテナンス国民会議北海道フォーラムでは、地方自治体への支援活動の一環として、道路舗装を主な題材としたインフラメンテナンスの最新の知見を学ぶ「講演会」を北海道地域を対象に開催しました。

本講演会は北海道内の市町村職員を主な対象としましたが、道外も含めた積雪寒冷地域の舗装インフラ管理に携わる多くの方々にご参加を頂きました。

日時 令和4年2月24日（月） 13:30～16:00

場所 オンライン

参加者 約210名

プログラム 〈開会挨拶〉

高野 伸栄（インフラメンテナンス国民会議北海道フォーラムリーダー／北海道大学大学院工学研究院 教授）

〈講演〉

①「舗装の点検と診断について」
亀山 修一（北海道土木技術会 舗装研究委員会 委員長／北海道科学大学 教授）

②「舗装の長寿命化に関する技術について」
丸山 記美雄（北海道土木技術会 舗装研究委員会 幹事長／土木研究所 寒地土木研究所 上席研究員）

③「自治体の新技術に関する取組み紹介
千歳市における簡易路面性状調査の実証実験」
山田 雄一（インフラメンテナンス国民会議北海道フォーラム舗装グループ／地崎道路株式会社）

〈閉会〉

高野フォーラムリーダーによる開会挨拶の様子

亀山教授による講演の様子

山田氏による講演の様子

丸山上席研究員による講演の様子

03 オンラインシンポジウム「老朽化するインフラをどう未来につなぐか」

各自治体で作成されている「公共施設等総合管理計画」について、参加自治体の現在の取り組みの状況そして実施における問題・課題について「話題提供」を頂きました。また、建設業協会の参加においては、地域の公共インフラの整備・更新・維持管理の担い手として老朽化問題にどのような役割や対策ができるかについて「話題提供」を頂き、参加者での「パネルディスカッション」を行いました。

日時 令和4年3月17日（木）13:30~16:30
場所 オンライン
参加者 約100名
プログラム 〈開会挨拶〉
高野 伸栄（インフラメンテナンス国民会議北海道フォーラムリーダー／北海道大学大学院工学研究院 教授）
〈講演、他〉
テーマ『老朽化するインフラをどう未来につなぐか』
~道内自治体が取組むインフラ対策の現状と課題を学ぶ~
蔵重 直樹（苫小牧市 財政部 管財課 課長）
高安 正（厚真町 総務課 参事）
岡本 淳敏（北海道建設業協会 土木委員会）
〈パネルディスカッション〉
・コーディネータ
高宮 則夫（民活推進小委員長兼自治体支援グループ）
〈閉会挨拶〉
栗田　悟（北海道建設業協会副会長兼北海道フォーラム企画委員長）

苫小牧市 財政部管財課 蔵重課長の講演の様子

厚真町 総務課 高安参事の講演の様子

パネルディスカッションの様子

北海道建設業協会 岡本委員の講演の様子

東北フォーラム

東北フォーラムは、インフラを良好な状態で持続的に活用することを目指し、平成30年4月27日に設立されました。産学官民が一丸となってメンテナンスに取り組む社会の実現に向けて、活動しております。

リーダー　石川 雅美
東北学院大学工学部 教授

01 インフラマネジメントシンポジウム2021（社会資本を支える維持管理の取り組み）

新しい東北を創生するためのインフラのありかたを発信する場として、昨年度に引き続き土木学会東北支部との共催で『インフラマネジメントシンポジウム2021』を開催しました。東北地方整備局での取組状況紹介、谷口博昭土木学会会長や写真家山崎エリナ氏による特別講演、東北大学大学院久田教授による最新話題の提供等、これからの社会とインフラのあり方について情報発信が行われました。

日時　令和3年11月8日（月）13:00~17:30

場所　宮城県仙台市　メトロポリタンホテル仙台よりオンライン配信

参加者　約230名（内訳:国、地方自治体、市町村、土木技術者、建設業関係者、コンサルタント、大学生等）

プログラム
〈開会挨拶〉
京谷 孝史（東北大学教授／土木学会東北支部長）
〈講演〉
①道路メンテナンス会議の取組み
　武田 滋生（東北地方整備局 道路保全企画官）
②港湾の維持管理について
　邊見 充（東北地方整備局 港湾空港企画官）
③ダムの維持管理におけるICT技術の活用
　佐藤 徳男（東北地方整備局 河川保全管理官）
④写真家が観たインフラメンテナンスの世界と現場の魅力
　山崎 エリナ（写真家）
⑤これからの国、まちとインフラのメインテナンス
　谷口 博昭（土木学会会長）
⑥インフラマネジメントに関する最新の話題
　久田 真（東北大学大学院工学研究科教授／東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター長）
〈閉会の辞〉
石川 雅美（インフラメンテナンス国民会議東北フォーラムリーダー）

東北地方整備局からの取組紹介

山崎エリナ氏による特別講演

谷口博昭土木学会会長による特別講演

02 東北フォーラム令和3年度 マッチングイベントin郡山

東北の各自治体が抱えるインフラの維持管理に関する課題・悩みなどの解決の糸口とすべく、企業が所有する技術などを紹介するマッチングイベントを対面オンライン併催方式で開催しました。日本大学工学部岩城教授による基調講演や国土交通省総合政策局による取組紹介、東北6県の行政会員から寄せられたニーズに応える形で、企業会員からの6件のシーズ紹介が行われました。今後は、このイベントを機に、提案技術の実装やマッチング方策について検討を図ります。

日時 令和3年12月15日（水） 14:00～17:00
場所 ビッグパレットふくしま　中会議室
参加者 約110名（内訳:行政会員、団体会員、企業会員等）
プログラム 〈挨拶〉
石川 雅美（東北学院大学 教授／フォーラムリーダー）
猪股 慶藏（福島県土木部長、代読：矢澤敏幸土木部土木企画課長）
〈講演〉
・『ふくしまの地から考える　2050年に向けた地方インフラのあり方』
岩城 一郎（日本大学工学部 教授）
・『国交省におけるインフラメンテナンスの取組紹介・意見交換』
松本 一城（国土交通省 総合政策局 調整官）
〈ニーズ紹介〉
〈シーズ紹介〉
【建築分野】
・床の補強方法について
【土木分野】
・アスファルト舗装の長寿命化技術
・橋梁床版に超高強度補修材料を適用
・ひび割れ点検を、スピーディーに、正確に行う技術
・特殊橋梁の橋梁点検
・ため池の維持管理手法

フォーラムリーダーの挨拶

イベント会場の様子

岩城教授による講演

関東地方フォーラム

インフラメンテナンスに関する地方公共団体及び産業等の育成･活性化を支援し、インフラメンテナンス国民会議の取り組みを地方レベルで推進させることを目的として、関東地方フォーラムを平成30年3月29日に設立しました。

リーダー　村越 潤
東京都立大学 教授

01 インフラメンテナンス先行事例の共有と課題解決に向けて

インフラメンテナンスを取り巻く環境や先行取組事例の発表と民間企業の開発技術紹介を通じて、インフラ施設の効率的な維持管理における産学官民連携による技術活用のメリット等を地方自治体の参考としていただくことを目的として、昨年度に引き続き、オンラインセミナーを開催しました。

日時　令和4年2月21日（月）13:30～16:20
場所　関東地方整備局よりオンライン配信
参加者　87名（官庁28機関53名/民間21社34名）
プログラム　〈開会挨拶〉
村越 潤（関東地方フォーラムリーダー、東京都立大学教授）
〈インフラメンテナンスに関する取組紹介〉
インフラ維持管理における新技術導入の手引き（案）について
（国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課）
〈道路の維持管理に関する取組紹介〉
①関東道路メンテナンスセンターの取り組みと地方への技術支援
（関東地方整備局 関東道路メンテナンスセンター）
②自治体支援制度の活用
～秩父橋における直轄診断及び修繕代行事業～
（秩父市役所）
〈インフラメンテナンスに関する技術紹介〉
①「Smart床版キャッチャー」による橋梁床版点検
（ニチレキ株式会社）
②インフランの日常管理、点検を支援するi-MASTER
（八千代エンジニヤリング株式会社）
③3Dデータを活用した構造物の状態把握
（アイセイ株式会社）
④衝撃荷重載荷試験機「SIVE」による床版たわみ計測
（大日本コンサルタント株式会社）

配信会場の様子

取組紹介の様子

技術紹介の様子

北陸インフラメンテナンスフォーラム

主に自治体が抱える課題に関する知識を深めるとともに人材交流により課題解決を見いだすことを目的とし、北陸インフラメンテナンスフォーラムを平成30年3月26日に設立しました。

活動にあたっては、産学官民協力して取り組む他、メンテナンス会議など既存組織で取り組んでいる活動と連携し、取り組むものとしております。

リーダー　丸山 久一
長岡技術科学大学 名誉教授

01 市町村の橋梁管理への簡易補修とトリアージに関する講習会

国土交通省による道路メンテナンス事業補助制度要綱が改正され、新技術等の活用や費用縮減の定量化が必要になりました。本講習会は、北陸SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）が主催、北陸インフラメンテナンスフォーラムは共催として、維持管理の効率化をテーマに講習会を実施しました。

講習会では、富山市の管理する道路橋に対する簡易補修の試験施工に関する中間評価、北陸地方の市町の管理する道路橋に対する合理的モニタリングの実績、および市街地における道路橋の集約化・撤去に対する考え方の研究事例を紹介しました。

日時　令和4年3月7日（月）13:00～16:35
場所　リアルタイムのオンライン開催
参加者　300名程度
プログラム　〈講習会〉
・中間評価を受けた補修試験施工の紹介
・モニタリング試験施工による診断・対策の効率化・高度化事例紹介
・廃橋計画に関する研究紹介

金沢工業大学 宮里教授の挨拶

整備局会場の聴講の様子

講習会（WEB）の様子

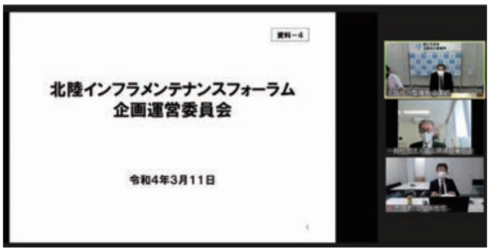
02 北陸インフラメンテナンスフォーラム 企画運営委員会

　新たな企画委員を迎えた新体制で、フォーラムの活性化に向けた今後の展開を議論する企画運営委員会を開催しました。
　本委員会では、今後発足予定の北陸ブロックインフラメンテナンス市区長村長会議（仮称）との連携方法についても議論し、北陸インフラメンテナンスフォーラムとして、自治体の抱えるインフラメンテナンスの課題解決に向けて連携して取り組んでいくことで合意しました。

日時　令和4年3月11日（金）10:00~11:00
場所　オンライン開催
参加者　北陸インフラメンテナンスフォーラム企画運営構成員26名
プログラム　〈企画運営委員会〉
・北陸フォーラム概要説明、今後の展開について
・企画委員新体制の報告
・新たに発足予定の北陸ブロックインフラメンテナンス市区町村長会議（仮称）との連携について
・運営要領の改正について

丸山フォーラムリーダーの挨拶

北陸フォーラム企画運営委員会（WEB）の様子



北陸フォーラム企画運営委員会説明の様子

中部フォーラム

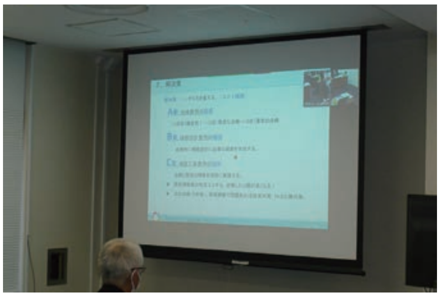
中部フォーラムは、民間主体の事務局として平成30年1月26日に設立し、中部地方の自治体が管理する主として土木インフラについて、メンテナンスサイクルの確実な実施に向けて支援いたします。

リーダー　原田 和樹
玉野総合コンサルタント株式会社

01 小規模コンクリート橋の維持管理に関する自治体支援

東海コンクリート診断士会と中部フォーラムとの共同開催により、テーマ「小規模コンクリート橋の維持管理に関する自治体支援」に対し、中部フォーラムよりメリハリのある点検、東海コンクリート診断士会より劣化に応じた簡易補修工法についてプレゼンし、参加9自治体と共に、「自治体点検・補修DIY」について意見交換を行いました。意見交換では、事前アンケート結果に基づき、点検DIYにおける課題や困り事、その対応事例の共有や、補修DIYを実施するための障害や対応策などについて活発な意見交換が行われました。

日時　令和3年11月2日（火） 13:30～16:00
場所　オンライン開催
参加者　9自治体、東海コンクリート診断士会、中部フォーラム事務局（中部地整含む）
プログラム　〈開会挨拶〉
中部フォーラム、東海コンクリート診断士会、中部地方整備局企画部
〈課題の共有〉
テーマ趣旨説明、事前アンケート結果の紹介、2自治体による現状の問題紹介
〈事務局からのプレゼン〉
中部フォーラム、東海コンクリート診断士会
〈自治体と事務局の意見交換〉
〈事務局からの提案〉
〈メンター〉
中村教授（名古屋大学）、沢田教授（岐阜大学）講評
〈閉会挨拶〉


中部フォーラムプレゼン風景

東海コンクリート診断士会プレゼン風景

会場風景

02 名城大学出前講座「令和3年度 施設維持管理理論 橋梁の維持管理と実務」

コンクリートの維持管理に関する授業「施設維持管理論」の1コマとして、実務的な観点から「橋梁維持管理の実例」について、理工学部社会基盤デザイン工学科の4年生を対象に出前講座を行いました。本講義では、学生にインフラメンテナンスの実態を理解頂き、今後の自身の研究活動の気づき・動機付けの一助となり、その結果がインフラメンテナンスの社会的知名度向上に繋がることを目指しました。

日時 令和3年6月8日（火）オンデマンド配信
場所 オンライン開催
参加者 大学生15名
プログラム
〈インフラメンテナンス国民会議 中部フォーラムについて〉
原田 和樹（玉野総合コンサルタント株式会社）
〈橋梁維持管理概論〉
伊藤 均（八千代エンジニヤリング株式会社）
〈橋梁維持管理の動向〉
古澤 栄二（株式会社テイコク）
〈橋梁維持管理　実務の事例紹介〉
①床版取替え設計:ASRと凍害の複合劣化で傷んだ床版の取換え
②NEXCO高速道路の橋梁維持管理
　細江 育男（大日コンサルタント株式会社）
③塩害地区の橋梁補修設計
　榮 義彦（玉野総合コンサルタント株式会社）

講義動画（中部フォーラムの紹介）

講義動画（橋梁維持管理概論）

近畿本部フォーラム

平成28年12月15日に設立し、平成30年1月の第1回フォーラムの開催を皮切りに、令和4年3月末までにフォーラムを9回、ピッチイベントを7回開催しました。さらに実証実験を12回開催し、これらの延べ人数は、施設管理者432名、民間企業等1,068名となりました。

リーダー　片岡 信之
一般社団法人国土政策研究会
関西支部理事

01 近畿本部フォーラム2021

「インフラメンテナンス国民会議　近畿本部フォーラム2021」は、多くの方にインフラメンテナンスについて考えていただくきっかけを作り、産学官民が一丸となってインフラメンテンスに取り組む社会の実現を目指し、民間企業・団体によるインフラメンテナンスに関する技術の紹介や建機・先進技術のデモンストレーションなどを行う展示会です。あわせて、専門家による講演やシンポジウムなども開催しました。

日時　令和3年7月1日（木）10:00～17:00
令和3年7月2日（金）10:00～17:00

場所　花博記念公園鶴見緑地 ハナミズキホール・付属展示場・中央広場

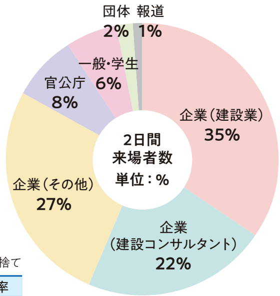
参加者　約9,224名（1日目 4,579人、2日目 4,645人）

参加団体
■屋内/ハナミズキホール
・75ブース（89社※共同出展者含む）による展示・PR
■屋外/付属展示場
・12ブース（17社※共同出展者含む）による重機の展示
それを用いたコンテンツ
・ケータリングカーによる飲食スペース
■屋外テント/中央広場
・カンファレンス（セミナー形式）

開会式

2日間の来場者数　※比率は端数切捨て

来場者属性	来場者数	比率
企業（建設業者）	3,140人	34%
企業（建設コンサルタント）	2,006人	22%
企業（その他）	2,476人	27%
官公庁	736人	8%
一般・学生	582人	6%
団体/その他	192人	2%
報道	92人	1%
合計 9,224人		



出展分野　※比率は端数切捨て

出展分野	ブース数	比率
保守・監視・点検	28ブース	32%
メンテナンス／補修・補強／更新	43ブース	49%
防災・減災対策	8ブース	9%
環境保全対策	3ブース	4%
IoT、ビッグデータ、AI活用技術・システム	4ブース	5%
ダイバーシティ	1ブース	1%
合計 87ブース		

同時開催　7月1日（木）13:00~

近畿管内道路メンテナンス会議
近畿地方整備局管内7府県の道路管理者が結集し基調講演、
各府県道路メンテナンス会議活動報告、定期点検・修繕等の事例紹介などが行われた。
「道路の老朽化対策に関する最近の動向について」
清水 将之（国土交通省 道路局 国道・技術課 道路メンテナンス企画室長）
「近畿道路メンテナンスセンターによる自治体支援について」
細井 正也（国土交通省 近畿地方整備局 近畿道路メンテナンスセンター長）
点検支援技術性能カタログのデモおよびプレゼンテーション
災害時の自治体支援について　粟津 誠一（統括防災官）
大規模な災害が発生したときの自治体支援としてTEC―FORCEの派遣について紹介しました。

プログラム

■7月1日（木）

開会宣言 10:00～
霜上 民生
インフラメンテナンス国民会議
近畿本部 フォーラム2021
実行委員長
（一般社団法人国土政策研究会
理事兼関西支部長）

来賓挨拶
森戸 義貴
国土交通省
大臣官房技術調査課長

10:20～
「近畿地方整備局のインフラメンテナンスの取組発表」
池口 正晃
国土交通省 近畿地方整備局
企画部長

10:50～
「近畿本部フォーラム取組報告及び実証実験報告」
坂野 昌弘
インフラメンテナンス国民会議
近畿本部 フォーラム情報WG長
（関西大学 環境都市工学部 教授）

来賓挨拶 11:10～
東川 直正
国土交通省 近畿地方整備局
局長

特別講演 11:20～
「令和時代の課題」
脇 雅史
一般社団法人国土政策研究会
会長

15:40～
「社会基盤メンテナンス教育センターの取組
～高度化・技術伝承・ICT活用～」
玉田 和也
舞鶴工業高等専門学校
社会基盤メンテナンス教育センター

■7月2日（金）

特別講演 10:00～
「大阪・関西万博に向けた人中心の空間づくり」
渡瀬 誠
大阪市建設局 局長

基調講演 10:50～
「最近の社会資本整備の取組と関西のインフラ」
東川 直正
国土交通省 近畿地方整備局
局長

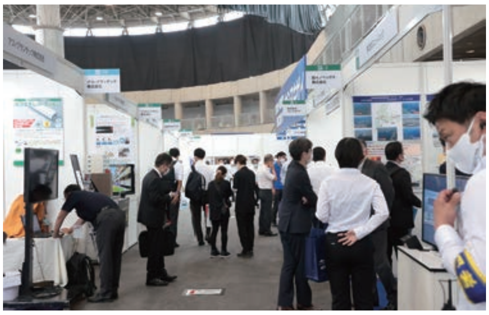
11:35～ 出展企業DX取組発表

対談 13:00～
「インフラ・メンテナンスとコロナ禍&デフレ脱却」

藤井 聡
京都大学大学院
工学研究科
教授

三橋 貴明
株式会社
経世論研究所
所長

特別講演 14:40～【事前収録】
「国土交通省のインフラメンテナンスの取組と今後について」
山田 邦博
国土交通省 事務次官



展示ブース

■オンラインイベント

近畿本部フォーラムオンライン

会期 令和3年7月1日（木）～令和4年6月30日（木）

オンライン来場者	7月1日	7月2日
訪問ユーザー数	1,092人	1,083人
ページビュー（全体）	20,985回	17,244回
ブースインタビュー動画閲覧回数	5,589回	3,393回
会員登録数	204人	177人

02 第9回フォーラム

第9回フォーラムでは6つのテーマ（①点検の機械化に係る技術、②橋梁塗装に係る技術、③空洞調査に係る技術、④台帳整備に係る技術、⑤ため池堤防等の漏水箇所に係る技術、⑥橋梁補修に係る技術）についてそれぞれ討論を行いました。各ニーズに対し、民間企業や自治体、ファシリテーターがディスカッションを行い、各自治体が抱える課題に対する解決策の方向性を模索しました。

日時 令和3年10月28日（木） 13:30～17:00
場所 近畿地方整備局 第1別館内会議室
参加者 93名（地方自治体20名、民間企業等52名、国土交通省6名、メンター1名、事務局14名）
プログラム
・インフラメンテナンス国民会議近畿本部フォーラムのこれまでの活動
・各テーマごとに分かれてディスカッション
・統括

班別討議の様子

まとめの様子

03 第7回ピッチイベント

第7回ピッチイベントでは令和3年10月28日に開催した第9回フォーラムで討議したテーマに対し、民間企業が保有するシーズ技術のプレゼンテーションを行いました。テーマは①点検の機械化に係る技術、②橋梁塗装に係る技術、③空洞調査に係る技術、④台帳整備に係る技術、⑤ため池堤防等の漏水箇所調査に係る技術。これらの技術の提案を受けて、今後実証実験に繋げていきたいと考えています。

日時 令和3年12月21日（火）13:00~16:30
場所 近畿地方整備局 第一別館 大会議室
参加者 142名（地方自治体26名、民間企業等97名、国土交通省6名、メンター1名、事務局12名）
プログラム
- 来賓挨拶（国土交通省近畿地方整備局 企画部長 豊口 佳之）
- 民間企業によるプレゼンテーション
- 総評

会議風景

会議風景

04 第12回実証実験

ピッチイベントの結果、施設管理者が抱える課題解決の可能性が高いシーズについて、現地において、実験を行い、技術を検証を行いました。

日時 令和3年10月14日（木）
プログラム
- 求める技術：モルタル吹付における、劣化状況や内部の空洞化状況、ラス網の有無などの構造を把握することができる技術
- 施設管理者:和歌山県
- 実証実験実施者:
  株式会社ウォールナット
  「ケーブルレス地中レーダを用いたドローン計測」
  有限会社太田ジオリサーチ
  「金属探知機を用いた吹付モルタル内のラス金網探査」
  「一次元表面波探査を用いたモルタル吹付背面の地山強度測定」

第12回実証実験の様子

第12回実証実験の様子

05 第13回実証実験

ピッチイベントの結果、施設管理者が抱える課題解決の可能性が高いシーズについて、現地において、実験を行い、技術の検証を行いました。

日時 令和3年12月3日（金）

プログラム
- 求める技術：洗堀防止に特化したライニング等の技術
- 施設管理者:高槻市都市創造部下水河川事業部課
- 実証実験実施者:
  サンユレック株式会社
  「流入水によるマンホール内壁面の
  摩擦を防止するための防護材技術」

第13回実証実験の様子

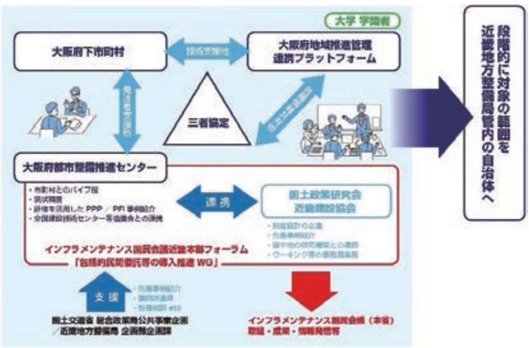
第13回実証実験の様子

06 包括的民間委託等の導入推進WGの設置について

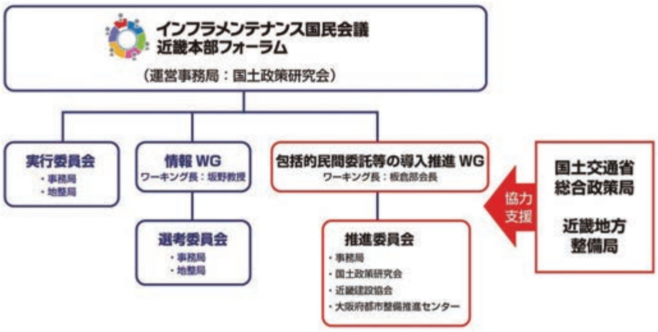
近畿本部フォーラムでは、「包括的民間委託等の導入を促進するため、導入検討を行う地方公共団体を支援する施策」を進める国土交通省の動向を契機と捉え、地域の活動として企画に賛同する3団体と連携し、自治体支援等を目的にインフラメンテナンスを持続的・実効的に効率化するような契約手法・制度的テーマ等に取り組むWGを設置する運びとなりました。

日時 令和3年10月1日（金）

プログラム
　自治体支援を目的とした地域の活動として、近畿本部フォーラムがこれまで取り扱ってきた技術的な課題や地域の雇用や産業にも配慮しつつ、行政と民間企業のマッチング課題や新技術導入の課題解決の糸口となる活動を展開することで施策浸透の一翼を担う予定です。
　尚、当面は、大阪府下の自治体の中からモデルケース（先行的事例）を発掘し、そこから近畿地方整備局管内全域へと展開を広げ~全国へと情報発信を行う予定です。



当面の活動イメージ



インフラメンテナンス国民会議近畿本部フォーラムにおける体制と進め方

「ちゅうごく」（中国フォーラム）

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」は、インフラという地域の資産を維持するために、行政だけではなく産官学民での連携による持続可能な維持管理や予防保全の取り組みが重要であるとの観点から確実かつ効率的なインフラメンテナンスの実現を図ることを目的とし、平成30年3月27日に設立しました。

リーダー　藤井 堅
広島大学 名誉教授

01 第3回ピッチイベント

自治体（施設管理者）が抱える施設管理に関する課題に対し、民間事業者等が課題解決に繋がる技術等を紹介する第3回ピッチイベント（技術提案会）を実施しました。

ピッチイベントでは、「下水道施設において発生する硫化水素により通常より急速に劣化が進むコンクリート構造物の腐食劣化対策」と「プラスチック貯留材等を利用した仮設盛土の代替え工法」という2つの課題に対し、民間事業者等8社が自社製品やサービスの紹介を行い、紹介された技術に対して施設管理者から積極的な質疑（施工条件、価格等）等、意見交換が行われました。

日時　令和3年8月31日（火） 14:00～16:20
場所　オンライン形式
参加者　70名（内訳:施設管理者5名、民間企業等8名、傍聴者35名、マスコミ1名、企画委員等21名）
プログラム
〈開会の挨拶〉
藤井 堅
（インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」フォーラムリーダー）
〈課題（ニーズ）の概要説明と留意事項〉
インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」 企画委員会
〈プレゼンテーション〉
自社製品やサービスの紹介希望者（全8社）
〈講評〉
宮本 文穂
（インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」メンター／山口大学名誉教授）
〈話題提供〉
インフラ維持管理における新技術導入の手引き（案）について
萩野 皓介（国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 情報企画係長）
〈閉会の挨拶〉
梅田 俊夫
（国土交通省 中国地方整備局 企画部 事業調整官）

藤井堅フォーラムリーダーによる開会の挨拶の様子

プレゼンテーションでの質疑応答の様子

宮本文穂山口大学名誉教授による講評の様子

02 第4回ピッチイベント

自治体(施設管理者)が抱える施設管理に関する課題に対し、民間事業者等が課題解決に繋がる技術等を紹介する第4回ピッチイベント(技術提案会)を実施しました。

ピッチイベントでは、「日交通量1万台以上でも10年間耐久する白線」、「イノシシ対策技術」、「防草・除草技術」などの6つの課題に対し、民間事業者等12社が自社製品やサービスの紹介を行い、紹介された技術に対して施設管理者から積極的な質疑(施工条件、価格等)等、意見交換が行われました。

日時 令和3年12月23日(木) 13:30~17:20

場所 オンライン形式

参加者 100名(内訳:施設管理者20名、民間企業等14名、傍聴者46名、マスコミ1名、企画委員等19名)

プログラム

〈開会の挨拶〉
藤井 堅
(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」フォーラムリーダー)

〈課題(ニーズ)の概要説明と留意事項〉
インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」企画委員会

〈プレゼンテーション〉
自社製品やサービスの紹介希望者(全13社)

〈講評〉
宮本 文穂
(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」メンター/山口大学名誉教授)

〈話題提供〉
インフラ維持管理における新技術導入の手引き(案)について
林田 拓都(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画係長)

〈閉会の挨拶〉
梅田 俊夫
(国土交通省 中国地方整備局 企画部 事業調整官)

藤井堅フォーラムリーダーによる開会の挨拶の様子

プレゼンテーションでの質疑応答の様子

宮本文穂山口大学名誉教授による講評の様子

四国地方フォーラム

インフラメンテナンス国民会議「四国地方フォーラム」は、四国地方4県の自治体及び建設コンサルタントが主体となり、平成29年12月26日に設立されました。地方自治体の課題に対し、民間企業が解決策となる技術を提案し、議論を深めて支援していきます。

リーダー　矢田部 龍一
愛媛大学防災情報研究センター
特命教授

01 防災・まちづくりに関わる最新の学術・技術開発シンポジウム

愛媛大学防災情報研究センターが技術開発の研究成果を発表するシンポジウムを開催（インフラメンテナンス国民会議四国地方フォーラム共催）し、その中で路面下調査などのインフラメンテナンスに関する研究発表を行いました。

日時　令和3年7月6日（火）13:00～17:35

場所　愛媛大学南加記念ホール

参加者　約350名

プログラム　〈開会挨拶〉

ネトラ・プラカッシュ・バンダリ（愛媛大学 防災情報研究センター長）

〈セッション：建設・防災関連技術開発研究〉

・地中レーダ技術を用いた路面下性状調査に関する研究

・空間情報の調査と解析に関する総合的研究
（GNSSを活用した効率的な調査・解析の推進）　等

〈閉会挨拶〉

矢田部 龍一（愛媛大学 防災情報研究センター特命教授）

成果発表状況の様子①

成果発表状況の様子②

02 第3回四国フォーラムピッチイベント

四国地方における各自治体のインフラメンテナンスに対するニーズや課題について、国土交通省の取り組みや民間企業の実装結果、取り組み及び最新技術を広く共有し、インフラメンテナンスに係る新技術の実装及び各自治体への支援等を図ることを目的に「第3回四国フォーラムピッチイベント」を開催しました。

日時 令和3年11月26日（金）10:00~12:00

場所 アスティ徳島及びオンライン併用開催

参加者 約110名　内訳：（行政）地方自治体及び国土交通省
（大学）愛媛大学矢田部特命教授、吉井教授
（民間企業他）四国内のコンサルタント、建設業企業等

プログラム

〈開会挨拶〉
愛媛大学 矢田部防災情報研究センター特命教授

〈講演〉
・国土交通省におけるインフラメンテナンスの取組
国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課
・点検支援技術性能カタログ（案）等について
国土交通省 四国地方整備局 道路部

〈ピッチイベント〉
・簡易路面調査技術の実装結果
西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
・市町村橋梁の簡易な予防保全の仕組みとその工法について
~横移動梯子工法を用いた橋守保全~　株式会社フジみらい
・ダム･水路構造物の点検を効率化･高度化するロボット技術
（ダム水中点検ロボットシステム／水路構造物点検ロボットシステム
“モモタロウ”）　日本工営株式会社
・UAV（ドローン）による橋梁点検技術の検証
（全方向衝突回避センサーを有する小型ドローン技術（BR010009-V0020））　株式会社第一コンサルタンツ

〈総括及び閉会挨拶〉
愛媛大学 吉井教授

ピッチイベント会場の様子

事務局からの説明の様子

九州フォーラム

平成30年1月17日に設立した九州フォーラムも4年が経過し、技術のマッチングイベントはもとより、自治体からの「よろず相談」にお応えするテックシニアーズの支援活動や市民参画型のイベント開催など、当フォーラムならではの活動にも積極的に取り組んで参りました。令和3年度は、テックシニアーズによる自治体支援を本格的に開始した結果、徐々にその活動成果も結実しつつあり、多くの自治体から期待の声をいただいています。

リーダー　日野 伸一
九州大学 名誉教授

01 第5回ピッチイベント「インフラDXが創り出す安全・安心・豊かな未来社会」

九州フォーラムでは、設立から先ずは3年間、「自治体からのニーズ」と「民間からのシーズ」のマッチングによるインフラメンテナンスの課題解決に向けた活動を中心に取り組んでまいりました。

今回は、働き方改革、効率化の推進等の改革に向けて促進すべきインフラDX化の取り組みについて、幅広く議論しました。

前半の基調講演では、国土交通省、静岡県、建設ITジャーナリストの3名の方からDXにおける最新の話題提供、後半のパネルディスカッションでは、各パネラーが考えるメンテナンスの未来について討議を行いました。

日時　令和3年10月26日（火）13:00～17:00
場所　福岡国際会議場
参加者　来場参加:207名　WEB参加:175名
プログラム
〈開会の挨拶〉
フォーラムリーダー　日野 伸一
（九州大学 名誉教授）
〈基調講演〉
①国土交通省が描く建設DXを活用する未来
　木村 康博（国土交通省）
②VIRTUAL SHIZUOKAが創作するワクワクする未来
　杉本 直也（静岡県）
③ロボット・AIが人間とともに働く未来のメンテ現場
　家入 龍太（株式会社イエイリ・ラボ）
〈パネルディスカッション〉
～近未来妄想会議　DXでメンテナンスをデラックスにする～
コーディネーター：片山 英資（一般社団法人ツタワルドボク）
パネリスト：木村 康博、杉本 直也、家入 龍太
〈情報提供〉
・テック・シニアーズの活動紹介 川神 雅秀（防災構造工学研究所）
・ピッチイベント長崎の紹介　　松田 浩（長崎大学）
〈閉会挨拶〉
フォーラムサブリーダー　福島 宏冶
（一般社団法人建設コンサルタンツ協会九州支部）

フォーラムリーダー挨拶の様子

基調講演の様子

パネルディスカッションの様子

02 テックシニアーズの技術支援活動

九州フォーラムは自治体が取り組む公共インフラの維持管理について、技術的な面でお困りの問題等の支援を目的に、技術アドバイザーチーム『テックシニアーズ』を令和2年4月に設立しました。

今年度は、自治体の「よろず相談」への支援対応や、九州7県道路メンテナンス会議技術検討部会症例検討会に出席し、事例紹介を担当する自治体への技術アドバイスを行うなど、コロナ禍の制約下で活動を展開しました。本格的活動を開始した今年度は自治体から支援要望が多数寄せられており、令和4年度は活動を一層強化し自治体の期待に応えます。

日時 随時開催

場所 九州地方整備局、各直轄事務所など

参加者 自治体、九州フォーラム(テックシニアーズ、自治体ユニットメンバー)、九州地方整備局

プログラム 〈自治体向けの「よろず相談」支援〉

・佐賀県鹿島市　開催日：1回目　令和3年 7月15日
　　　　　　　　　　　　2回目　令和3年 8月 5日

・熊本県宇城市　開催日：令和3年12月2日

〈道路メンテナンス会議との共同企画〉

九州7県道路メンテナンス会議技術検討部会症例検討会にアドバイザーとして参加

・福岡県　　開催日:令和3年8月02日
・佐賀県　　開催日:令和3年7月20日
・長崎県　　開催日:令和3年7月26日
・熊本県　　開催日:令和3年8月10日
・大分県　　開催日:令和3年7月21日
・宮崎県　　開催日:令和3年7月26日
・鹿児島県　開催日:令和3年7月28日

※令和4年2月予定の第2回道路メンテナンス会議技術検討部会は新型コロナウイルス感染の影響により中止

よろず相談(その1)の様子

よろず相談(その2)の様子

道路メンテナンス会議技術検討部会症例検討会の様子

03 ファンタジーメンテナンス部 1DAY インターンシップ

九州フォーラムでは、市民参画活動の第2弾として、「ファンタジーメンテナンス部 1DAY インターンシップ」をオンラインにて開催しました。

今回は、九州における3つの重要インフラ（関門橋、福岡空港、上椎葉ダム）のメンテナンス現場を3次元動画等を用いて紹介し、現場の臨場感を感じていただきました。

さらに、メンテナンス現場の最前線で活躍する技術者と参加者が直接意見交換を行うことで、若い世代に今後のインフラメンテナンスの必要性・重要性、市民参画の在り方について考える機会を提供しました。

日時 令和3年11月18日（木）18:00

場所 オンライン

参加者 30名（高校生・高専生・大学生など）

プログラム 〈メンテナンス現場〉
- 関門橋
- 福岡空港
- 上椎葉ダム

〈協力〉
- 西日本高速道路株式会社 九州支社
- 九州地方整備局 博多港・空港整備事務所
- 九州電力株式会社 宮崎支店

関門橋の現場紹介

福岡空港の現場紹介

上椎葉ダムの現場紹介

沖縄フォーラム

沖縄フォーラムは、平成30年3月5日に準備会での議論のうえ、平成30年3月22日に設立しました。自治体が抱えるインフラメンテナンスの課題を克服するために、産学官民が一丸となって解決に取り組んでまいります。

リーダー　有住 康則
琉球大学 名誉教授

01 沖縄におけるi-constructionの展開について

ICT施工の現状は、土工･舗装の限定的な工種に止まり、多様な作業特性の建設現場では、人手に頼る作業も数多くあります。建設現場における人力作業から機械化施工への転換方策をはじめ、沖縄の現場特性である小･中規模工事における利益性のあるICT施工の技術開発など、設計、工事、維持管理の建設分野を横断的に議論する必要があります。

本土と比較し建設機械によるICT施工がなかなか進まない沖縄では、その理由や課題を明らかにするなど問題意識を明確化した上で議論を通じて解決策を模索し普及促進を図ることを目的とします。

日時　令和3年11月26日（金） 13:00～17:00

場所　パレット市民劇場（那覇市）

参加者　約159名（内訳:行政15名、団体25名、民間119名）

プログラム　〈基調講演〉
建山 和由（立命館大学理工学部 教授）
〈テーマ講演〉
森戸 義貴（国土交通省 大臣官房 技術調査課長）
〈トークセッション〉
コーディネーター：建山 和由（立命館大学理工学部 教授）
パネリスト：粂野 真一郎（内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 企画調整官）
前川 智宏（沖縄県 土木建築部 土木整備統括監）
新里 哲生（株式会社鏡原組 常務取締役）
岡部 成行（株式会社オカベメンテ 代表取締役）
コメンテーター：森戸 義貴（国土交通省 大臣官房 技術調査課長）

基調講演の様子

テーマ講演の様子

トークセッションの様子

02 インフラメンテナンス国民会議沖縄フォーラム 現場技術紹介

市町村が抱える課題の一つとして、橋梁点検の点検足場の難しい橋梁があります。点検車による交通規制が伴う橋梁や点検車が適さない橋梁（ランガー橋など）、桁下からのアプローチが難しい橋梁（ハイピアや谷あい）が挙げられます。このような橋梁に対して、橋面の規制が少なく、桁下環境の制約を受けないロボット点検を試行しました。

実際のロボットによる点検状況を管理者に実体験していただき、自ら管理する橋梁に対して、適用可能かどうかのイメージをしてもらうことを目的に実施しました。

日時 令和3年12月9日（木）
午前の部（11:00～12:00）、午後の部（14:00～15:00）

場所 内閣府沖縄総合事務局会議室（事前説明）、
国道329号とよみ大橋（現地実演）

参加者 約50名（内訳：行政13名、大学・団体9名、民間28名）

プログラム **〈事前説明：午前の部〉**
橋梁点検支援ロボットの概要（座学）
〈現地実演：午後の部〉
橋梁点検支援ロボット点検
（ジビル調査設計株式会社、金秀鉄工株式会社）

事前説明の様子

現地実演の様子①

現地実演の様子②

Infrastructure Maintenance Photo Gallery

写真提供　山崎エリナ〈写真家〉　フランスを拠点に写真活動に専念。40か国以上撮影し国内外で写真展開催。近年は建設業・インフラメンテナンスの現場・技術者に密着した写真集を出版するなど活躍中。

インフラメンテナンス国民会議ホームページ

インフラメンテナンス国民会議 検索

インフラメンテナンス国民会議（JCIM）事務局
hqt-jcim-sogo@gxb.mlit.go.jp

2022年4月発行